

# 郷土教育推進研究報告書

令和7年度（2025年度）

## 「郷土日野」指導事例

～ 第20集 ～



日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

# 目次

ごあいさつ	〈竹山弘志：教育センター 所長〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	〈菅野竜也：郷土教育推進研究委員会委員長 東光寺小学校 校長〉・・・・・・・・	1
I	研究の構想・・	2
1	研究の主題 2 研究主題に迫る授業像	
II	研究組織・・	3
III	研究経過・・	3
IV	実践事例・・	4~39
1	Aグループの研究	
	「郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成」・・・・・・・・・・・・・・・・	4~12
	「まちづくりについて考えよう」「地域のよさを伝えよう」「日本の伝統文化」	
	「地域で受け継がれているもの」 成果と課題 学習指導案	
2	Bグループの研究	
	「郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成～日野大好き大作戦！～」	13~21
	「ぼくらは用水探検隊」「日野の地層からみる歴史発見」「滝合プロジェクト日野市バスらせ王けってい戦」	
	「平山おかぼを育てよう」 成果と課題 学習指導案	
3	Cグループの研究	
	「身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成」・・・・・・・・	22~30
	「高幡不動尊はかせになろう」「ひのはちから創るSDGs!」「わたしたちの東京都の様子」	
	「発信！七生緑編集部」「図書館での取り組み」 成果と課題 学習指導案	
4	Dグループの研究	
	「身近な地域の歴史や文化を知り、郷土を愛するひのっ子の育成」	31~39
	「強い意志で」【A 努力と強い意志】「日野で育った土方歳三」「日野用水について調べよう」	
	「受け継がれる祭り」 成果と課題 学習指導案	
V	夏季研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40~46
1	旭が丘・多摩平地区の近現代の動き・・・・・・・・・・・・・・・・	40~42
2	平山台（旭が丘）のフィールドワークと地形図から学習課題を設定する	43~46
VI	ふるさと文化財課、図書館、生涯学習支援課（中央公民館）との連携	47~49
	平山陸稲栽培・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
VII	研究の成果と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
VIII	個人研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51~56
	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57
	奥付	

# ～ ご あ い さ つ ～

## 第20集の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 竹山弘志

本教育センターには「ふるさと教育係」として郷土教育コーディネーターが配置され、郷土教育推進研究を担当しています。そして、郷土教育推進研究委員会を立ち上げ、校長や副校長、各小学校の教員、学識経験者、関係機関の方々など30余名の委員でこの研究を推進しています。

本年度は研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」としました。そして、ひのっ子と呼ばれる日野の子供たちが生まれ育ち、日々の生活をしている日野そのものを教材化して郷土教育の授業を行うことを目指しています。ひのっ子にとっては、自分のふるさとであり故郷である日野の歴史や文化、産業、自然などを郷土学習として学ぶことで、より深く日野を知り、愛着をもち、地域の一員としての自覚が醸成されるのではないかと思います。そのためには、教員自らが日野をよく知り、郷土教育の授業に資する教材を開発していくことが必要だと思います。今年度も学識経験者の講話やグループ討議、フィールドワークなどの研修で得たものを授業に生かし、子供たちの学びに還元することができました。そして、これらの実践を『郷土日野』指導事例～第20集～』にまとめて発刊することができました。各校では、総合的な学習の時間等において「郷土日野指導事例」の検索システムを活用して、子供たちの探究的な学習等に生かしていただければ幸いです。

結びに、第20集の発刊にあたり、ご尽力いただきました郷土教育推進研究委員会の皆様、ご協力いただきました地域の皆様、関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

### 郷土への愛着を高める児童の育成を目指す授業の創造

郷土教育推進研究委員会委員長  
日野市立東光寺小学校 校長  
菅野竜也

今年は「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」を目指し、郷土教育推進研究委員会の研究を進めて参りました。

4つのグループそれぞれで研究授業を創造しました（うち3グループで実施）。多摩平地域のまちづくりを考え魅力を発信する、学校回りの用水について調べそのよさを多角的に発信する、身近な高幡不動尊について調べるために近隣の小学校とリモートで繋がり情報を集める、土方歳三の生き方に触れ信念を貫くことの大切さに気付く、授業者それぞれが勤務校の地域を分析し、グループのメンバーとともに授業をつくり、教材を工夫し、授業に臨みました。これまで蓄積された過去の事例集に掲載されている貴重な指導事例を参考、活用した研究授業も実施できました。

ご指導いただきました顧問の皆様方をはじめ委員の選出をいただいた各学校、ふるさと文化財課、中央公民館、図書館の皆様方に感謝申し上げます。

児童の生活圏、勤務校の周辺、日野市全体の自然、文化、歴史、偉人、建築物、遺跡…に関心をもち、それらを知ることによって授業を構想し、準備し、実践することが郷土教育を推進するうえで大切であることを学ぶことができたように思います。今後のますますの研究の深まりと先生方、子供たちの学びが深まることを期待しています。

## ～郷土教育推進研究～

### I 研究の構想

#### 1 研究の主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

第4次日野市学校教育基本構想（2024年度）には、「すべてのいのちがよこびあふれる今と未来をつくっていく力」として子供たち自らが育んでほしい力が示されています。3つの基本方針のうち、地域との関わりで「社会と未来に開き、みんなで作る」が示されています。地域を舞台として関わりの中で体験し学ぶ中で、ホンモノ・舞台、多様な参画、対話・協働と子供と大人の10+の姿で共有したい具体的な活動として「地域共創プロジェクト」が示され、郷土教育に深く関わる項目や、教育活動を進めていく上で大事にすべき事柄が示されています。

この第4次学校教育基本構想に基づき、郷土教育とは郷土を深く理解し、郷土の魅力、郷土の課題を見つけることで、子供なりの視点でふるさと日野を誇りに思い、良くしていきたいという願いをもって郷土で活躍する子供を育む教育としました。地域の今から、未来の担い手として、地域社会に参画する子供を育む教育を推進することは、第4次学校教育基本構想の「社会と未来に開き、みんなで作る」につながります。

そこで、郷土教育推進研究委員会（以下、委員会）では、研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」として、郷土教育の進め方を創意工夫し、郷土教育を通して第4次日野市学校教育基本構想に迫ろうと考えました。

#### 2 研究主題に迫る授業像

委員会では、研究主題の内容を皆が共通理解して研究を進めることが重要であると考え、研究主題に迫る授業像を下表のように明らかにし、共有しました。

	郷土への愛着を高める児童	→	地域と共に生きようとする児童
授業で獲得が期待されること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土の人・こと・ものを知る。</li> <li>・ 郷土を身近に感じる。</li> <li>・ 郷土の良さや素晴らしさに感動する。</li> <li>・ 郷土を誇りに思う。</li> <li>・ 郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる。</li> <li>・ 郷土の人々とつながる。</li> <li>・ 郷土に生まれ、郷土の一員である自分を自覚する。</li> </ul> <p>※「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土を大切にしようとする。</li> <li>・ 郷土の営みに協力する。</li> <li>・ 郷土に貢献しようとする。</li> <li>・ 郷土を元気にしようとする。</li> <li>・ 郷土を発展させようとする。</li> <li>・ 郷土に生まれ、そこで生活している自他を大切ににする。</li> <li>・ 自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やす。</li> <li>・ 郷土で培われた自己の個性を生かし、他地域や外国においても自己の務めを果たす。</li> </ul>
育みたい学習態度	<p>～主体的・対話的で深い学び～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら課題、自ら解決…探究的に学習する。</li> <li>・ 人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする。</li> <li>・ ものごとを自分との関わりでとらえる。</li> <li>・ 学んだことを通して自己の生き方を考える。</li> <li>・ 学んだことを発信する。</li> </ul>		

## II 研究組織

役員会	教育センター所長	竹山 弘志
	委員長	菅野 竜也 (東光寺小学校長)
	副委員長	秋田 克己 (日野第三小学校副校長 Cグループ)
	指導主事	松田 絢也 (日野市教育委員会教育指導課)
	郷土教育コーディネーター	高橋 清吾 (教育センター)
	郷土教育担当	尾形 斉 (教育センター)

Aグループ	世話人	高橋 優太 (日野第六小学校)
		飯塚 直大 (豊田小学校)
		木下 涼平 (日野第五小学校)
		海老原祥子 (旭が丘小学校)
		片岸絵梨花 (ふるさと文化財課)
	顧問	吉野美智子 (元百草台小学校長)

Bグループ	世話人	中原 祥雄 (南平小学校)
		飛澤 宗太 (平山小学校)
		佐藤 俊太 (滝合小学校)
		佐藤 志穂 (仲田小学校)
		金野 啓史 (ふるさと文化財課)
	顧問	柳元 太郎 (元仲田小学校長)

Cグループ	世話人	宮川 美沙 (夢が丘小学校)
		山崎 留美 (潤徳小学校)
		蓮田 光幸 (日野第八小学校)
		前川 大樹 (七生緑小学校)
		沖田 彩花 (高幡図書館)
		秋田 克己 (日野第三小学校副校長)
	顧問	伴 光明 (日野第三中学校長)

Dグループ	世話人	荒川 真帆 (東光寺小学校)
		中山 真吾 (日野第一小学校)
		佐藤 全 (日野第三小学校)
		宮寺 翔 (日野第四小学校)
		千葉 智子 (日野第七小学校)
		渡部 康弘 (中央公民館)
	顧問	小杉 博司 (元日野第一小学校長)

## III 研究経過

月・日・曜	活動内容	月・日・曜	活動内容
5・23・金	委嘱状及び辞令伝達、顔合わせ	10・28・火	A・Bグループ研究授業
6・17・火	フィールドワーク等事前研修、グループ研究	11・11・火	C・Dグループ研究授業
6・24・火	フィールドワーク研修会	12月	研究のまとめ、成果と課題等作成
7・30・水	夏季研修、グループ研究	1・30・金	郷土教育研究発表会
8・21・木	グループ研究、指導案検討	2・9・月	教育センター研究発表会
9・26・金	グループ研究、指導案検討		

## IV 実践事例

### 1 Aグループの研究

令和7年度  
**Aグループ**  
郷土の魅力を知り、発信する  
ひのっ子の育成

世話人 木下 涼平 (日野第五小学校)  
海老原 祥子 (旭が丘小学校)  
飯塚 直大 (豊田小学校)  
高橋 優太 (日野第六小学校)  
片岸 絵梨花 (ふるさと文化財課)  
顧問 吉野 美智子 (元百草台小学校長)

Aグループ 研究テーマ設定の理由

**郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成**

- それを伝え残そうとする人々の営みがある。自分たちにもできることはあるか。
- 知らなかったけど、日野市には誇れるものがたくさんある！！  
(ゴミの排出が少ない！ゴミ削減の取組・今も残る絵巻「ひらやまおかほ」現在の図書館のシステムを作った日野市 など)
- 自然が多い。
- 歴史的な人物が関わっている。(真聖歌、新選組など)

日野市の魅力とは？

Aグループ 研究テーマ

**郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成**

- 各々が授業を一つ行う。
- 郷土の魅力について発見したり、自分たちにできることを考えたりする授業を展開する。

以上のことを各教員が実践した。

**【実践 Aグループ研究授業】**

6年 総合的な学習の時間  
「まちづくりについて考えよう」  
日野第六小学校 指導者 高橋優太

視点：地域の人々・もの・こととの関わりを通して、まちづくりのために尽力してきた人々の思いや願いを理解し、よりよい町を未来につなげていくために、自分たちにできることを考え実践し、地域の一員としての自覚を養う。

ゲストティーチャー  
にインタビュー



**【実践 Aグループ研究授業】**

- ①テーマごとに分かれ、ゲストティーチャーから聞いた話を整理した。
- ②自分達のグループの願いを叶えるために何を目的に探究活動を進めていくかピラミッドチャートで分類する。
- ③活動報告を行う。

整理分析



ピラミッドチャート



Aグループでは、まず日野市の魅力とは何かを話し合いました。調べてみると、日野市には、大人でも知らない歴史や隠れた良さが多くあることに気付きました。そこで、児童にも日野市には、誇れるものがたくさんあると感じてもらい、その良さを伝え、残そうとしている人々の営みに、自分たちにもできることがないかを考えられるようになってもらいたいと思い、「郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成」というテーマを設定しました。

研究テーマにのっとり、各々が郷土の魅力を発見したり伝えたりできる授業を作成し、実施しました。これからAグループの実践について紹介します。

日野第六小学校6年生の研究授業では、導入で3年時に学習した「わたしたちの日野」を振り返りました。日野市の地形の特色や歴史について改めて知ることで自分達の住んでいる日野市の魅力について再確認しました。

その後、フィールドワークを行うことで今まで気にならなかった自分達の地域の様々なものに疑問をもちました。そして3人の講師の先生に「日野市について」、「多摩平地域について」、「旭が丘地域について」の話を聞きました。活動を終えて児童からは、「多摩平は自分が思っていたよりも歴史があるんだな。」「もっと自分の疑問を追求したい。」などの声が挙がりました。

ゲストティーチャーから聞いた話をカードにまとめ、情報を集めました。本時では、①テーマごとに分かれ、ゲストティーチャーから聞いた話を整理しました。②自分達のグループの願いを叶えるために何を目的に探究活動を進めていくかピラミッドチャートで分類する。③最後に活動報告を行い、これからの見通しをもちました。

授業を通して児童一人一人が見通しをもって活動に取り組めるようになりました。

**【実践 Aグループ研究授業】**

授業を終えての成果と課題

○**成果**

- ・思考ツールを活用することで、児童は自分の考えを視覚的に整理することができた。さらに学習の見通しを立てやすくなった。問題の解決方法に気付きやすくなった。意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ゲストティーチャーを同じ郷土教育推進研究委員会に所属の先生方へお願いすることで児童がより深い学びを得ることができた。

○**課題**

- ・今回は児童の探究テーマが「自然」「農業」「地域」「文化」に分かれたがもう一度機会があれば六小地域の特色である「工業」への意欲・関心を高めさせたい。
- ・子供たちにできることは限られているが、やりがいがありながら子供にできることを事前にもっと考え、まとめておけるとよかった。

授業を終えての成果と課題です。成果として①思考ツールを活用することで、児童は自分の考えを視覚的に整理することができた。さらに学習の見通しを立てやすくなったり、問題の解決方法に気付きやすくなったりして、意欲的に学習に取り組むことができた。

②ゲストティーチャーを同じ郷土教育推進研究委員会に所属の先生方へお願いすることで児童がより深い学びを得ることが出来た。ことが挙げられました。

課題としては①今回は児童の探究テーマが「自然」「農業」「地域」「文化」に分かれたがもう一度機会があれば六小地域の特色である「工業」への意欲・関心を高めさせたい。②子供たちにできることは限られているが、やりがいがありながらも子供にできることを事前にもっと考え、まとめておけるとよかった。ことが挙げられました。

**【実践②】3年生総合的な学習の時間「地域のよさを伝えよう」**  
豊田小学校 飯塚直大

①社会の学習と関連付けて、東海南北にどんな地域のよさがあるかを見つけよう。

②稲の種類や育て方など詳しく調べる。




③農家に入った場所について、稲を調いたりメモをとったりする。

④はさがけ体験をする。

○**成果**

- ・実際に地域をめぐって見学したり、地域農家の方からお話を聞いたりすることで、自分の住む地域に「こんなよさがあるんだ」と気づき、地域のよさを調べることもできた。
- ・地域のよさについて、見学や体験だけでなく、家中インターネットを使って調べ、まとめたことさらに理解を深めた。また、友達の間で話し、新たな発見や気づきもあった。

豊田小学校では、総合的な学習の時間に、社会の学習と関連付けて地域のよさを見つけたり、地域の稲作農家の方から様々なことを教えていただいたりしました。地域をめぐること、普段生活している地域で児童にとって新たな発見がありました。また、稲作農家の方から直接お話を伺ったり、体験したりしたことで地域のよさに興味をもつ児童が数多くいました。その後、分かったことをまとめ発表しました。それぞれが発見したことや調べたことを発表し合うことで地域の魅力についてさらに理解を深めました。

**【実践③】**  
5年 総合的な学習の時間  
『日本の伝統文化』  
旭が丘小学校 指導者 海老原祥子

視点  
日本の伝統文化について体験したり調べたりする中で、日本の伝統文化のよさやそれらに関わり受け継いでいる人々の思いを理解する。




○**成果**

- ・実際に農家の方の話を聞いたり、農作業を体験したりしたことで、農作業への興味関心が高まることにも、作物を作ることの大変さを実感することができた。

○**課題**

- ・田植えをした後から脱穀までの間、米作りへの関心を継続させることが難しかった。

旭が丘小学校の5年生では、総合的な学習の時間に社会の学習と関連付け、米作りについて学習しました。日野市の農家の方をゲストティーチャーとして招き、米作りについて教えていただきながら実際に学級園でお米を育てる活動を行いました。

日本の伝統食である和食に欠かせない「米」。普段当たり前に食べている米を育てるには、農家の方の様々な苦労や手間暇がかかっていることを実感を伴って学習することができました。

**【実践④】**  
4年 社会  
『地域で受け継がれているもの』  
日野第五小学校 指導者 木下涼平

視点  
地域で受け継がれている年中行事や文化財について知り、受け継いでいる人の思いに気付くことができる。

○**成果**

- ・自分たちが住む市にも受け継がれている年中行事や文化財があること「ひの新選組まつり」などの祭りを残していきたいと願う人々の気持ちに支えられて、祭りが受け継がれていることに気付かせることができた。

○**課題**

- ・ゲストティーチャーなどを活用できると、児童の考えをより深めることができた。

日野第五小学校の4年生では、社会科で地域の年中行事や文化財について学習しました。

取り上げたのは、教科書に記載されている府中くらやみ祭りですが、日野市にも「ひの新選組まつり」などの年中行事があり、25年ほど受け継がれていることを知り、他の祭りと同じ様に自分の住む地域でも、伝統を残したいと考えている人々の思いに支えられて受け継がれているものがあることに児童が気付くことができました。

## 成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ゲストティーチャーの活用による児童の興味・関心の高まり。</li><li>・郷土教育を授業に取り入れることが郷土について考えるきっかけになった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究テーマの選定</li><li>・郷土の人への注目</li><li>・単元計画との兼ね合い</li></ul>

最後にグループで、協働して行った成果と課題です。

成果は、ゲストティーチャーを活用したことにより、子供たちが今まで知らなかった地域の情報について知ることができ、授業への興味と関心が高まったことです。調べさせるだけではなく、実際に話を聞くことの有効さを感じました。また、郷土教育的な授業を取り入れることで、児童が地域のことについて考えるきっかけをつくることができました。

課題は、研究テーマの選定や広げ方です。今回研究授業を行った六小地域では、工業が盛んなので研究テーマとして工業を入れると六小地域の特色により関心を向けることができたのではないかと考えました。また、企業や物、歴史だけではなく町づくりに尽力してきた人の思いや願いにも触れることができるとより良かったと感じました。また、単元計画が事前に設定されているなかで、郷土教育の授業を取り入れることの難しさがあったという意見も挙がりました。

# 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時：令和7年10月28日（火）

第5校時 13：30～14：25

学校名：日野市立日野第六小学校

場所：6年2組教室

対象：6年2組 29名

授業者：教諭 高橋 優太

研究主題

郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成

## 1 単元名「まちづくりについて考えよう」（全45時間）

### 2 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

地域の人々・もの・こととの関わりを通して、町づくりのために尽力してきた人々の思いや願いを理解し、よりよい町を未来につなげていくために、自分たちにできることを考え実践し、地域の一員としての自覚を養う。

#### (2) 単元の評価規準

観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(主)
評価規準	① よりよい町づくりのために尽力してきた人々の思いや願いを理解する。 ② インタビューによる調査活動や町の探索活動を、相手や目的に応じて実施している。 ③ 自分たちの町を未来につなげていきたいという自らの認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① 地域散策や地域で働く人々等との交流を通して、地域の高さを見付け、課題を見いだしている。 ② よりよい町づくりの実現のために必要な情報について、手段を選択して収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 ③ 課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④ よりよい町づくりに向けた自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ・表現している。	① 体験や出会いを通して、よりよい町づくりへの関心をもち、自ら問いを見いだし、解決しようとしている。 ② 友達と協働してすすんで課題解決に取り組もうとしている。 ③ 地域の人・もの・こととの関わりを通して、自分たちにできることを見付けようとしている。

### 3 指導観

#### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」第 3 章

#### 第 3 節 各学校において定める目標及び内容の取り扱い

各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。
- (5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

を受けて、「伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」として設定した。

小単元 1 では、これまで学習をしていない「地域の歴史」を知ることで、自分たちがまだ地域について知らないことがあることに気が付き、それらを課題として設定し探究学習を行う。「地域における現在の取組」について地域の人々の話を聞き、「未来がどんな日野市になってほしいか」を考え、自分たちにできることを計画し、行動する。

小単元 2 では、「よりよい未来の町にしていきたい」という願いから、小単元 1、2、そして未来への「希望」を伝える場を設けることで、自己の成長を感じ、よりよい未来に向けての自分の立場を明らかにする。

何度も課題と向き合い、解決に向けて協働的に活動することを繰り返し行うことで、探究的に学ぶよさを実感させ、自ら課題を設定し実践、行動につなげる力を身に付けさせたい。

#### (2) 児童観

自分の役割は責任をもって果たそうとする前向きな児童が多い。一方で、自分たちでアイデアを考えて実行に移したり、自分から積極的に行動したりする経験は乏しい。誰かにやってもらうことが当たり前ではなく、自分から何か行動をしてみたいという力を高めたい。そのために、児童にとってゆかりのある地域には様々な歴史的事実があることを知ったり、町のよさを改めて実感させたりする経験を通して、自分たちの町について「誰かに伝えたい」「何か自分にできることをしてみたい」という意欲や関心を高めたい。

#### (3) 教材観

児童が住む地域は、昔から住んでいる人と新たに移住してきた人で二極化している。新築マンションの建設が進み、人口が増えるのに伴い本校の児童数も増えた。また、歴史的に見ると、昭和初期は更地だった地域に「団地」や企業が進出し、「日野自動車」「コニカミノルタ」といった工業が根付いたことで人々が住み着くようになり、地域を潤してきた。近年では新築マンションの建設に合わせて大規模ショッピングモールが建築されるなど、日々人々の住み方によって地域の様子が多様に変化しているという実態がある。

また、学区外ではあるが「多摩平の森」は、戦後カナダ人宣教師であるストーン牧師が故郷に似た森として大切にされた。他にも「多摩平御料の森公園」もストーン牧師と関係があり、大正時代から御料地として大切にされてきた場所であることが分かっている。これらの森や公園には様々な種類の植物や動物があり、今でも地域の人々が緑を守り、木々を育てている。

このような身近な地域の自然や守られてきた歴史を小単元の導入の際に提示することで、自分たちの地域が価値あるものであるということに気が付き、まだ知らない地域のよさや課題を見つけ、表現・実践・まとめをしていく。その中で、地域住民の人へのインタビューや交流、実践、実践の報告会を行う中で、自己有用感をもたせ、よりよいまちをつくる地域の一員として自覚をもたせることができると考えた。

#### 4 研究主題に迫るための手立て

①協働的な学習…本單元では、郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成のために、調べたり、話を聞いたりしたことを元に、日野の魅力を伝える表現活動、実践を行う。これらを通して他者の意見を聞き、異なる視点から考えたり、意見を交流させたりする活動を通じて、他者と協力して取り組む力を育てていく。②ゲストティーチャーの活用…郷土に詳しいゲストティーチャーを招いて話を聞き、質問する時間を設ける。自分が興味のある分野を選択し話を聞き、学びを深める。③カードで整理・分析し、話し合う工夫…ゲストティーチャーやインターネットから得た情報をカードに整理し、蓄積した。整理・分析する場面では、テーマごとの小グループを形成することで、話し合いの活性化を図り、視点を基にピラミッドチャートを活用して分析していく。④課題に沿った視点の明確化…整理・分析する場面では、「自分が関われること」「テーマごとの魅力」という視点を明確化することで、目的意識をもって整理・分析する活動に取り組ませる。⑤グループ編成…ゲストティーチャーの話から得た情報と自分の町づくりに対する願いを基にグループ分けを行った。本学級では「自然」をテーマにしたグループが2つ。「農業」をテーマにしたグループが1つ。「文化」をテーマにしたグループが2つ。「地域」をテーマにしたグループが1つできた。

#### 5 単元指導計画【全 45 時間（○内は時間数）】

時数	探究学習	□主な学習活動	○教師の支援 ☆機能	評価規準
【1】 4	課題の設定	□自分たちの住んでいる地域の魅力について話し合い、歴史的背景について知る。① □日野（多摩平地区）にある「多摩平の森」を散策する。② □散策し、見つけてきた内容を共有する。①	○自分たちが住んでいる地域にある歴史的背景をスライドで提示することで、「もっと知りたい」「まだ知らないことがたくさんある」という課題意識をもたせる。	知① 思①
6	情報の収集	□日野市の歴史、地域の歴史を知り、さらに課題意識を高める。① 【ゲストティーチャー】 地域に詳しい方 （秋田先生、金野先生、小杉先生） □話を聞いて分かったこと、発見したことをカードにまとめる。③	○日野市を守って来た人々の思いや願い、社会の変化に即した開発がされていることに気付かせる。 ○色分けされたカードに分かったこと、発見したことをまとめる。	知① 思① 思②
2	テーマの設定	□カードにまとめた内容をテーマごとに分類整理する。① □分類したものから自分が主体的に関わることができるテーマを選択する。①	○前時までに作ったカードを使い、分類する。	思② 思③ 主② 主③
4	整理・分析 （本時）	□図書館の資料や学習者用端末を使い、テーマについて調査する。② □集めた情報を視点をもとに整理・分析することができる。② （本時）	○情報収集の視点を学級全体で事前に話し合い、目的意識をもって交流させる。	
6	まとめ・表現	□調べたことを日野市の魅力の発信に向けて、目的や相手意識をもってまとめる。④	○目的意識、相手意識をもってまとめさせる。	思④ 主②

【2】 4	課題の設定	□□自分たちの実践活動や発信をどのように伝えていくか話し合う。②	○学習の目的意識を明確にさせる。	主③
10	情報の収集 整理・分析 表現	□実践活動をする⑧ ・発表会 ・配布 ・展示会 ・集会活動 ・ホームページに掲載 など	○公民館や地域の施設、店舗など事前に連絡しておく。児童が考えた取組を可能な限り実現できるように、協力を得ておく。	主② 思② 思③
5	まとめ・表現	□報告会を行う。④	○学習を通して、学んだことや実践したことをお世話になった人へ報告し、自分たちの頑張りを称える機会を設ける。 ○実践や報告会の際に地域の人にフォームまたは用紙でアンケートを取り、児童の活動への感想をお願いする。 ☆フォーム	思④
4	まとめ	□活動の振り返りをし、自分のこれからの生活や自己の生き方を考え、伝え合う。②（作文）	○児童が地域のために活動できたことに達成感や自己有用感を感じられるように価値付ける。 ○過去、現在において町づくりに携わってきた人々の思いや願いに着目させた上で、自分達の町への思いをまとめさせる。（作文）	知③ 主③

#### 5 本時について（17/45 時間）

##### （1）本時の目標

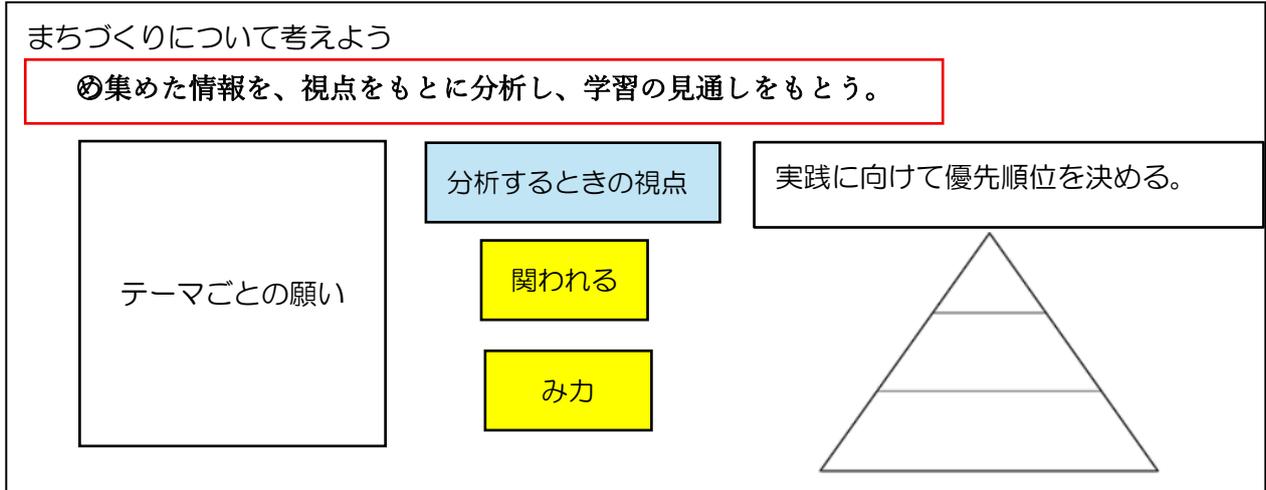
設定したテーマの情報を視点をもとにグループで分析し、活動への見通しを立てることができる。

##### （2）本時の構成

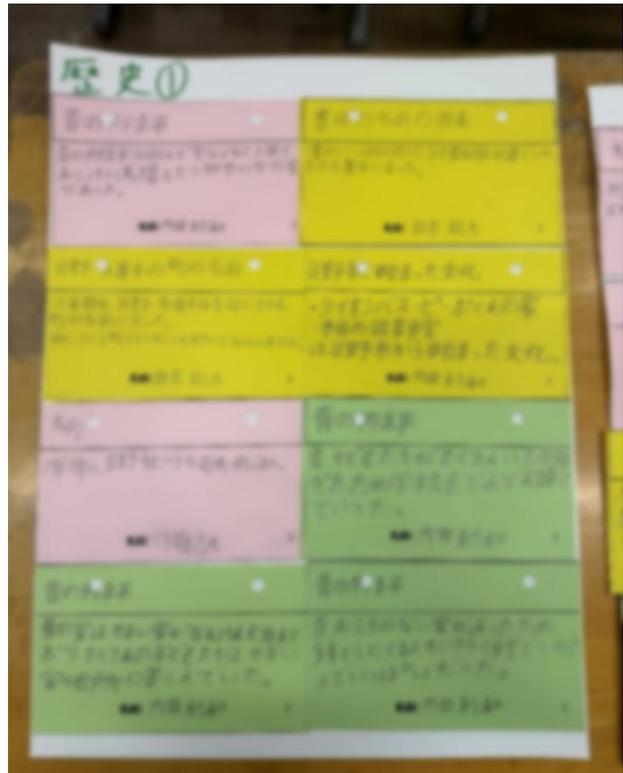
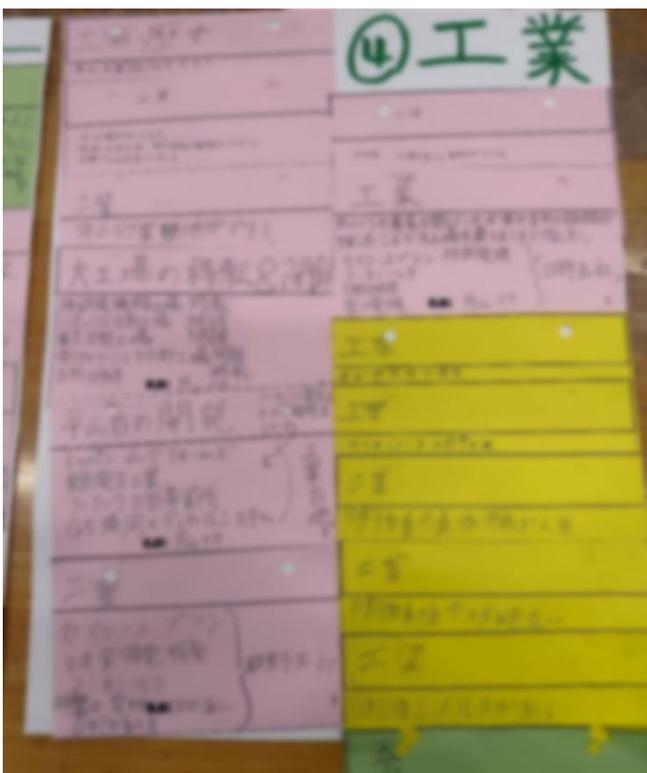
時間	◎学習内容 ○学習活動 ・予想される児童の答え	・指導上の留意点	☆評価規準 （評価方法）
導入 5分	◎テーマごとの願いを確認。 ○「自然」「農業」「文化」「地域」のテーマごとに決定した内容を振り返る。	・テーマを確認することで、共通理解を図る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           ◎集めた情報を、視点をもとに分析し、学習の見通しをもとう。         </div>			
展開 33分	◎集めた情報の整理。 ○前時まで個人で集めた情報カードをグループで共有し、整理する。 ・予想される情報 「自然」 ・ペットボトルの削減のためにウォータースタンドを公共施設に置いている。 ・カワセミハウスはオクトーバーフェスト 2025 や藍の生葉で型染め体験などのイベントを実施している。	・数多くある情報をまとめることによって分析しやすくする。 ・内容が同じ、似ているカードは重ねる。	☆主・学・態② 友達と協働してすすんで課題解決に取り組もうとしている。 （発言・行動観察）



(3) 板書計画



ゲストティーチャーやインターネットから得た情報をカードに整理し、蓄積する。課題を整理・分析する場面では、テーマごとに小グループを形成することで、話し合いの活性化を図り、視点を基にピラミッドチャートを活用して分析していく。



## 2 Bグループの研究

令和7年度  
**Bグループ**  
郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成  
～日野大好き大作戦！～

世話人	中原 祥雄	(南平小学校)
	飛澤 宗太	(平山小学校)
	佐藤 俊太	(滝合小学校)
	佐藤 志穂	(仲田小学校)
	金野 啓史	(ふるさと文化財課)
顧問	柳元 太郎	(元仲田小学校長)

**研究テーマ設定の理由**

研究テーマ「郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成」  
～日野大好き大作戦！～

↑

まだ知らない日野市の魅力を発見し、大切に守っていききたい

↑

豊かな自然 長い歴史

↑

日野市の素敵な魅力とは？

↑

日野市が大好き

**学習テーマ**

研究テーマ「郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成」  
～日野大好き大作戦！～

↓

- ・ぼくらは用水探検隊（3年生：総合的な学習の時間）
- ・日野市の地層からみる歴史発見（6年生：理科）
- ・日野市バスらせ王決定戦（6年生：総合的な学習の時間）
- ・平山おかぼを育てよう（4年生：総合的な学習の時間）

【実践①】研究授業 第3学年総合的な学習の時間「ぼくらは用水探検隊」  
仲田小学校 佐藤志穂



フィールドワーク①  
課題発見の為、学年全員で用水探検に行きました。

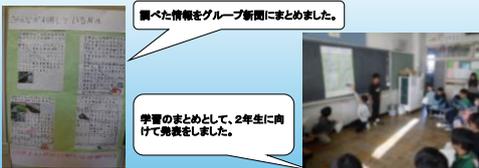
↑

ゲストティーチャーとして  
ふるさと文化財課の金野さん「藤と青森  
園の方」にお話を聞きました。

↑

フィールドワーク②  
課題場で、児童が見学場所（上層、下層、仲田歴史）を巡り、フィールドワークを行いました。

【実践②】第3学年総合的な学習の時間「ぼくらは用水探検隊」 仲田小学校 佐藤志穂



調べた情報をグループ新聞にまとめました。

↑

学習のまとめとして、2年生に向けて発表しました。

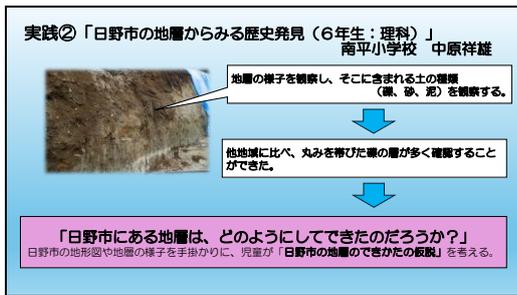
○リサーチタイム（フィールドワーク、ゲストティーチャーへのインタビュー、書籍やインターネットでの検索）を設定し、調べた内容を整理し取り入れ、児童が主体的に調べよう、発表を準備できた。  
○用水が昔も今も大切にされていることを知り、今後も大切にしていこうという気持ちが高まった。

Bグループでは、現在の児童の日野に対する思いとして、大好きとは思っているものの、その理由をしっかりと伝えられることができないのではないかとという問題意識から研究をスタートさせました。児童が日野市が大好きであるその理由をはっきりと伝えられるようになってほしい、そしてそれを将来にわたって大切に守ってほしいという願いから、日野にはどんな魅力があるのかを学びの中で明らかにし、日野が大好きな理由を自信をもって外部に発信できる児童を育てることを本研究のねらいとしました。そこで、本研究テーマを「郷土のことを学び、魅力を伝える日野っ子の育成～日野大好き大作戦～」と設定しました。

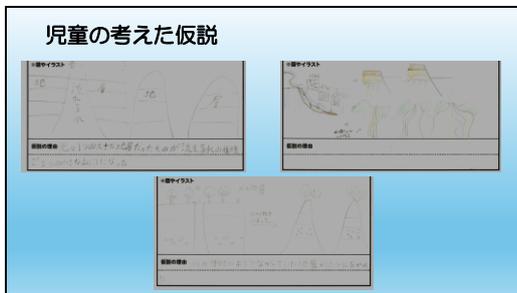
研究テーマに基づき、各校の委員が、日野の魅力を発見し、大切に守っていきたくするような教材を選び、学習テーマ、そして単元計画を設計しました。これからそれぞれの実践を紹介します。

仲田小学校では、総合的な学習の時間に、「ぼくらは用水探検隊」として、日野市で昔から大切にされてきた用水について探求を進めました。フィールドワークの時間を複数回設定し、児童が主体的に学習を進められるように単元計画をたてました。また、ふるさと文化財課の金野啓史（この ひろふみ）さん、ふるさと文化財課の職員の方、地域の方で、米作りなどに詳しい天野武雄（あまの たけお）さんをゲストティーチャーとしてお招きし、様々な視点から用水に関するお話をいただいたり、児童の質問に答えていただきました。

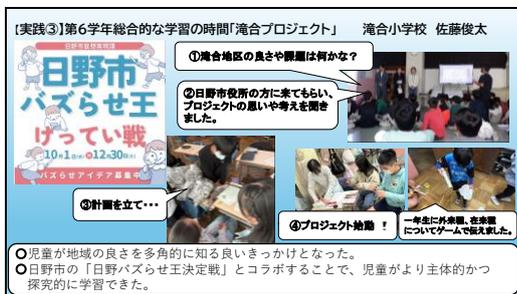
学習のまとめとして、グループ新聞を作成し、2年生に向けて発表をしました。一連の学習を通して、児童は用水の特色やよさに気付くとともに、自分たちも用水を大切にしていこうという気持ちを高めました。



南平小学校の6年生は、理科の学習において土地のつくりと変化について学びました。その学習のなかで、地層のでき方について学ぶ時間があります。そこで、日野市内にある地層を活用して学習を進めました。日野市にある地層を観察し、そこに含まれる土の種類を観察すると、丸みのある礫が多く含まれることを発見しました。教科書に掲載してある地層と比較すると大きく様子が違っていました。そして「日野市にある地層は、どのようにしてできたのだろうか？」を問題として設定し、日野市の地形図や地層の様子を手掛かりに、児童が「日野市の地層のできたたの仮説」を考える学習活動を設定しました。その際、5年生で学んだ「流れる水の働き」を想起しながら、手がかりをつなぎ合わせながら地層のできたたをグループで話し合い、仮説を考えました。



これは児童が考えた仮説の一例です。多くの児童が、浅川による土砂の運搬によって礫に丸みが帯び、それが堆積することによって地層ができたという仮説を立てていました。教科書の地層ではなく日野市の地層を活用して学習を進めることは、教材が遠い世界の物ではなく、すぐ近くにあるものとして、児童の興味関心を高めるだけでなく、郷土への理解を深め、更には郷土愛を育てることにもつながったと考えます。



滝合小学校では、総合的な学習の時間に、日野市役所のプロジェクト「日野市バズらせ王決定戦」と連携した学習を行いました。3～6年生が、日常生活や各教科での学びを通して見つけた気づきを基に、「日野市の魅力をどのように伝えるか」について探究しました。

学習のはじめには、日野市妄想実現課の方に来ていただき、日野市や滝合地区の良さ・課題について意見を交流しました。また、「バズらせ王決定戦」に選ばれた思いや目的についてもお話を伺いました。その後、児童は自分たちの考えをもとに、校内や地域で行う取組を計画し、実際にプロジェクトとして活動しました。実施内容については、日野市妄想実現課に報告し、市内で活用できるアイデアを活用していただきました。

こうした一連の学習を通して、児童は地域の良さを多面的に理解し、郷土への愛情を深める貴重な機会となりました。



平山小学校では、総合的な学習の時間に、日野市の農家さんと協力して「平山おかぼを育てよう」の学習を行いました。

学習のはじめには、農家さんに来ていただき、陸稲を育てることの面白さや、難しさについてお話を聞くことができました。

その後、児童は実際に陸稲を植える体験をして育ててきました。こうした一連の学習を通して、児童は地域の方と関わり、郷土が誇る農作物の生産への愛情を深める貴重な機会となりました。

最後に、本研究の成果と課題についてお話しします。初めに成果についてです。本研修を通して、教員自身の日野市への理解の深まり、自身の郷土愛が深まりました。郷土教材を学習活動に活用する授業設計への理解が深まりました。教科書の学習教材と郷土教材の横断的活用によって、児童の学習への興味関心が高まっている様子を見受けることができました。郷土を理解する体験活動（フィールドワーク、ゲストティーチャー）によって、児童の学習への理解促進を図ることができました。協働的な学習場面を設定することによって、児童の問題解決能力の高まりを感じました。

続いて課題です。学習テーマが広がりすぎることによって、児童の学習の焦点化が難しくなり、学習をまとめることに難しさを感じる場面がありました。児童の学習への課題意識が児童個人によって差があり、課題意識をもてない児童にどのような手立てをすればよいかを考える必要がありました。ゲストティーチャーの常時的な活用における調整に難しさを感じました。限られた郷土資料を多くの児童がどのように有効的に活用すればよいかを考える必要があると感じました。

**成果**

- ・日野市への理解の深まりから教員自身の郷土愛の深まり。
- ・郷土教材を学習活動に活用する授業設計への理解の深まり。
- ・教科書の学習教材と郷土教材の横断的活用による児童の学習への興味関心の高まり。
- ・郷土を理解する体験活動による児童の学習への理解促進。  
(フィールドワーク、ゲストティーチャー)
- ・協働的な学習場面の設定による、児童の問題解決能力の高まり。

**課題**

- ・テーマの広がりによる、学習の焦点化の難しさ。
- ・児童の学習への課題意識における個人差の問題。
- ・ゲストティーチャーの常時的な活用における調整の難しさ。
- ・限られた郷土資料の活用における難しさ。

# 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年10月28日（火）5校時

日野市立仲田小学校

第3学年1組 25名

指導者 佐藤 志穂

## 1 単元名 「ぼくらは用水探検隊」

## 2 単元の目標

仲田小学校周辺にある用水について課題を見付け、フィールドワークや地域の方へのインタビュー、話合いの活動を通して、用水の特色やよさに気付くとともに、よさを発信し広めていこうとする。

## 3 単元の評価規準

評価の観点		単元の評価規準
ア 知識・技能		①用水の生き物や役割、歴史について調べ、用水の特色を理解する。 ②用水の生き物や役割、歴史について疑問をもって調べることができる。 ③相手や場面に応じた適切な調査方法があること、新聞・ポスターなど、効果的に情報を伝える表現方法があることを理解する。
イ 思考・ 判断・ 表現	1 課題設定	①用水について課題意識をもち、何のために調査するのかを意識しながら見通しをもって計画を立てている。
	2 情報収集	②課題に適した調べ方を選び、調べたことや観察したことを適切に記録することができる。
	3 整理分析	③得られた情報を、思考ツールを活用したり、友達と共有したりして、整理することができる。
	4 まとめ・表現	④様々な表現方法から自分に適したものを選び、まとめることができる。
ウ 主体的に学習に 取り組む態度	1 自分自身に関すること	①身近な用水について、自らが設定した課題の解決に向け、意欲的に取り組んでいる。
	2 他者や社会との関わりに関すること	②友達と役割分担をしたり、自他の考えのよさを生かしたりするなど、学び合いながら学習している。 ③学習したことを振り返り、学んだことや自分の考えをまとめ、地域への愛着をもつことができる。

## 4 指導観

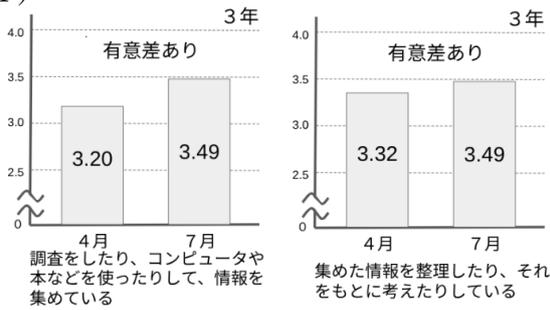
### (1) 単元について

日野用水は、学区域の様々な場所で見られ、学校に隣接する仲田の森蚕糸公園にも流れているため、児童にとっては生き物を探したり水遊びをしたりと身近なものである。しかし、用水が日野の特色の1つであることを意識している児童は少ない。日野市には、現在170kmほど用水が残り、国土交通省から「水の郷」の指定を受けている。このような地域の特色を生かして学習することは、児童が興味や関心を抱きやすいとともに、地域に対しての誇りと愛情を育てることにつながると考える。そこで、本単元では、日野の人々の暮らしを支えてきた用水の特色やよさに気付き、発信していくことを探究課題とした。

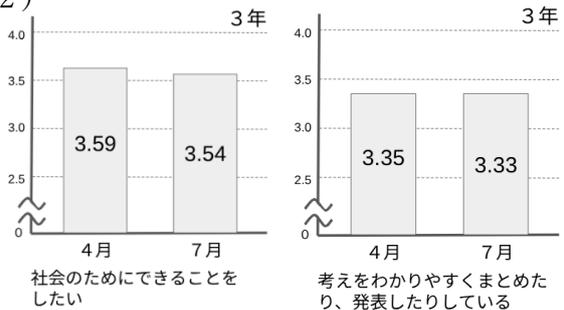
## (2) 児童の実態

児童の意識調査アンケートでは、「調査をしたり、コンピューターや本などを使ったりして、情報を集めている」「集めた情報を整理したり、それをもとに考えたりしている」についての意識が4月から7月にかけて有意に向上した(図1)。このことから、児童がフィールドワークやインタビューなどの様々な情報収集を行うことの有用性を実感し、理科で学習した観察の仕方など他教科の学びを生かすことができていると考えられる。一方で、「社会のためにできることをしたい」「考えをわかりやすくまとめたり、発表したりしている」についての意識は低下している(図2)。情報収集をする中で用水の特色やよさに気付き、自分の感じた魅力を周りの人に伝えたいという思いを高めていきたい。

(図1)



(図2)



## 6 単元の計画 (全26時間)

※評価規準の記号は、学習指導案「3 単元の評価規準」に則る。

小単元 【過程】 (時数)	【探究的な学習の過程】 ○学習内容	◇指導上の留意点 ☆地域の教育資源活用 □【教科名】他教科との関連	評価規準		
			ア	イ	ウ
用水単元探検! (つかむ) (4)	【課題の設定】 ○用水について知っていることを出し合う。 ○写真や地図を使って用水について知る。	◇用水での経験を思い出させ、自分たちの生活に身近なものであることを意識させる。 ◇日野市は「水の郷」と呼ばれ、用水が特色であることを知らせ、関心を高めさせる。	②	①	①
	【情報収集】 ○用水沿いを歩いて見学し、興味や関心を高めるとともに、多くの疑問をもつ。 (用水の役割や歴史、用水の生き物)	☆クラスごとにフィールドワーク①を行い、学校周辺の用水を見学する。 ◇詳しく調べたいことを選べるように、見学をしながら様々な視点を示す。 □【社会】地域探検【理科】生き物の観察	②	②	①
	【整理分析】 ○用水探検に行って気付いたことや疑問を整理する。	◇思考ツールを活用し、気付いたことや疑問を整理させる。 ◇個々の気付きを互いの学びにつなげる。	③	③	②
	【まとめ・表現】 ○用水探検を通じた発見、気付き、疑問などを発表し新たな課題発見につなげる。	◇児童の発言をまとめ、新たな課題発見に役立てることができるようにする。	①	④	③
用水について詳しく知ろう	【課題の設定】 ○ゲストティーチャーから話を聞く。 ○クラスのゴールイメージを設定する。 ○詳しく調べたいことを決める。 (生き物、環境保全、歴史、使われ方)	☆見学では気付かなかった新たな発見や疑問を見付けられるようにする。 ◇小単元のゴールを明確にする。 ◇なぜ調べたいのか明確にさせる。 ◇児童の実態に応じてグルーピングする。	②	①	①
	【情報収集】 ○自分の課題に合った方法で情報収集する。 ・地図や図鑑を基に調べる。 ・詳しく知る人にインタビューをする。 ・用水に行き、写真で記録する。	◇情報収集の方法を複数提示する。 ☆課題別にフィールドワーク②を行い、自分の課題に合った情報を集めさせる。 ☆学校司書や日野市郷土資料館と連携する。	③	②	①

	<p>【整理分析】</p> <p>○今までに収集した情報をグループで整理し、さらに集めたい情報について話し合う。【本時】</p> <p>○リサーチタイムで集めた情報をグループで共有する。</p> <p>○他のグループの友達と、自分たちが調べたことを伝え合う。</p>	<p>◇思考ツールを活用し、情報を整理させる。</p> <p>◇調べたことを違うグループの児童に伝え、さらに調べるとよいことなど助言させる。</p> <p>☆リサーチタイム(フィールドワーク③やインタビューなど)の活動を、目的に応じて選択できるようにする。</p>			③	②
	<p>【まとめ・表現】</p> <p>○調べたことが、学級全体に伝わるように新聞・ポスターなどにまとめる。</p> <p>○課題ごとのグループで調べたことを学級内で発表する。</p>	<p>◇新聞・ポスターなどの特徴や、それぞれの適切なまとめ方を示す。</p> <p>□【国語】「しょうかいする文」の書き方</p> <p>◇自分と異なる分野のことも知り、視点を広げられるようにする。</p>	①	④	③	
学んだことを知らせよう ③【行動する】 (4)	<p>【課題の設定】</p> <p>○今までの学習を振り返り、用水の特色やよさをどのようにして知らせるか話し合う。</p>	<p>◇生活科で1年生と一緒に活動したことを想起させ、他学年に用水の特色やよさを伝えることにつなげる。</p>	②	①	①	
	<p>【行動】</p> <p>○発表会を開き、グループごとに用水の特色やよさを2年生に伝える。</p>	<p>◇児童の考えが伝わるような方法や場の提案・助言をする。</p> <p>◇相手意識をもてるようにする。</p>		④	②	
	<p>【整理分析】</p> <p>○学級や、2年生に向けての発表を振り返り、自分たちが見つけた用水の特色やよさを伝えることができたか話し合う。</p>	<p>◇グループごとに発表会を振り返ることで、用水の特色やよさに改めて触れることができるようにする。</p>		③	③	
	<p>【まとめ・表現】</p> <p>○学習を通して、用水の特色やよさについてまとめる。</p>	<p>◇自分たちの地域のよさに気付き、地域への愛着を高められるようにする。</p>	①	④	③	

7 本時の学習 (全26時間中の第14時)

(1) 本時の目標

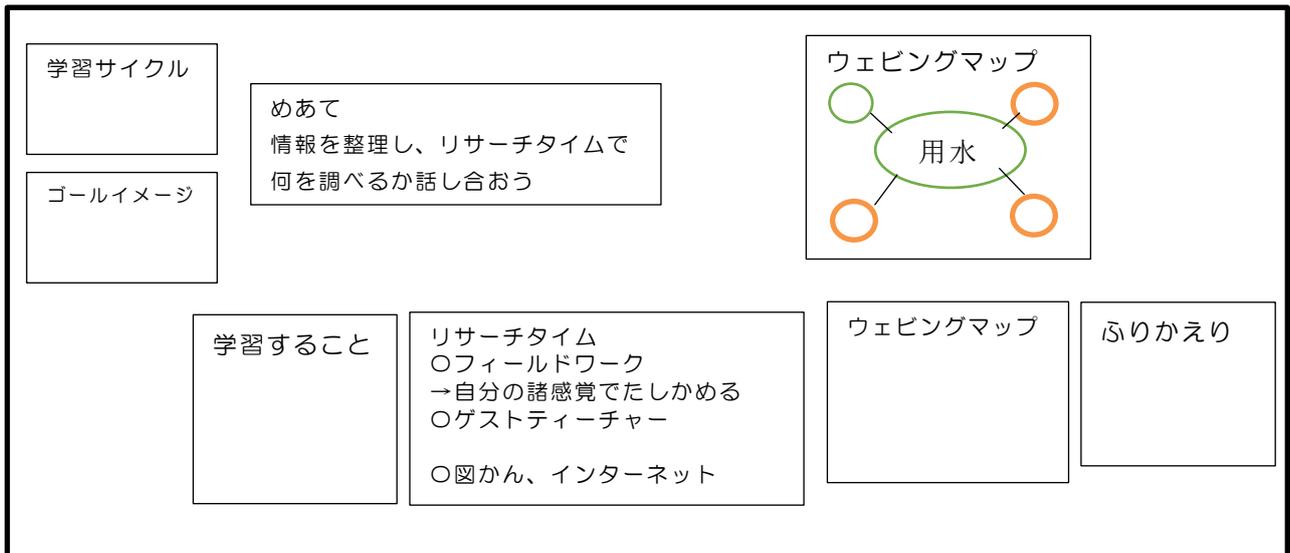
グループで情報を整理し、リサーチタイムに向けた課題設定の話合いをする。

(2) 本時の展開

過程	○学習活動 ・児童の発言 □互いに学び合うための条件	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】(方法)
見通し Anticipation 7分	○本時のめあて、学習の流れを確認し、自分のめあてを立てる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて：情報を整理し、リサーチタイムで何を調べるか話し合おう</div>	◇児童が見通しをもち、主体的に学習できるように、学習の流れを黒板に掲示する。
実践① Action 13分	○これまでの学習で分かった用水に関する情報をグループ内で互いに伝え合い情報を共有する。 ・昔は米作りや飲み水として使われていた。 ・場所によって水温が違うことが分かった。 ・フィールドワークでは、ザリガニや魚を見つけた。スポーツ公園の用水よりも蚕糸公園の用水の方が生き物はたくさんいた。	◇事前に付箋に情報(キーワード)を書いて準備しておく。 ◇グループでウェビングマップに情報を整理する。 ◇友達の発言に対して、感想を言ったり、質問をしたりしながら情報共有の時間を進めていくよう伝える。 ◆自分が調べた情報を整理して伝えている。 【ウー①】(発表の様子)
実践② Action 20分	○グループのウェビングマップを見て、リサーチタイムでの個人の課題について話し合う。 ○リサーチタイムでの課題を調べるための方法(フィールドワーク、ゲストティーチャー、図鑑やインターネットの検索)を考える。 □互いに学び合うための条件 準備：自分が調べた情報を付箋に書いておく。 目的：情報を整理して、情報が足りない課題や更に知りたい課題を見つける。 方法：グループのクラゲチャートに付箋を貼り、情報を整理分析する。 課題：リサーチタイムで、何についてどのように調べればよいのだろうか。 ○リサーチタイムで、「何について」「どのように」調べるかをワークシートに記入する。	◇グループのウェビングマップを見て、情報が少ない課題が見つかるようにする。課題設定に困っている場合は、KWLシートを振り返り、次の課題を探すよう声をかける。 (課題の選択の仕方は、①現状の課題の継続 ②現状の課題を更に深める③新しい課題など) ◇課題を調べる方法については、前時の学習を思い出す。 ◆自他の考えのよさを生かしながら学び合っている。【イー③】(グループの話合いの様子)

振り返り Reflection 5分	○学習のまとめを振り返りシートに記入する。 ・今までは仲田周辺の用水の生き物を調べたが、リサーチタイムでは上堰にいる生き物を調べ比べたい。 ・図鑑に載っていた生き物が実際にいるか、用水に行き確かめてみる。	◇自らの考えを整理し、次の活動に向けた見通しをもつために、振り返りの記述には、次のような視点をもたせる。 ①学習を通して感じたこと。 ②友達との話合いから学んだこと。 ③次に学習したいこと。
--------------------------	--	--

### (3) 板書計画



ぼくらは用水たんけんたい 月 日

めあて「今、分かっている用水のじょうほうをせい理し、  
自分のかだいを見直そう」

年 組 名前

---

【じょうほうのせい理】

【かだいの見直し】

A つづける B レベルアップ C へんこう

【今の自分のかだい】

### 3 Cグループの研究

令和7年度  
**Cグループ**

身近な地域を教材に、郷土の良さに気付く  
ひのっ子の育成

世話人 宮川 美沙（夢が丘小学校）  
山崎 留美（潤徳小学校）  
蓮田 光幸（日野第八小学校）  
前川 大樹（七生緑小学校）  
沖田 彩花（高幡図書館）  
秋田 克己（日野第三小学校副校長）  
顧問 伴 光明（日野第三中学校長）

(1)研究テーマについて

令和7年度 郷土教育推進研究委員会 研究主題

『郷土への愛着を高め、  
地域と共に生きようとするひのっ子の育成』

↓

Cグループ研究テーマ

「身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成」

(1)研究テーマについて

Cグループ研究テーマ

「身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成」

↓

○各学校の身近な地域とは何か。  
○何を教材にすると郷土の良さに気付くことができるか。

児童が身近に感じる地域について知り、郷土の良さに気付かせる。

(2) 研究授業について 3年 総合的な学習の時間  
「高幡不動尊はかせになろう」

潤徳小学校 山崎留美

**課題の設定**  
近隣校の日野八小の3年生から社会科見学で行った高幡不動尊についての学びを聞き、探究課題を設定する。

**情報収集**  
探究活動では、フィールドワークを核とした。実際に高幡不動尊を訪れ、地図を持って境内を回る。実際に体験する。高幡不動尊の方にインタビューをする。インタビューを通して、人々の思いを聞く。

**整理・分析**  
まとめでは、日野八小の3年生に学級の成果を発表する。また、日野市立図書館に展示を行ってもらい、多くの人に学習したことを広げる。

**主体的な学び**

**課題解決**

Cグループでは、今年度の研究主題を基に、郷土への愛着を高めるためには、まず「良さに気付く」ことが大切であると考えました。郷土の良さに気付くには、児童の身近な地域を知ることから始まるのではないかと考え、グループの研究テーマを「身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成」とし、身近な地域を教材として、良さに気付かせることを重点とした授業づくりに向けて研究を進めました。

「身近な地域を教材にする」というところから、各学校の身近な地域とは何か、何を教材にすると児童が興味をもって学習を進め、郷土の良さに気付くことができるかを話し合うことから研究を進めていきました。児童にとっては当たり前に住んでいる地域ですが、自分の地域をより知っていくことで、改めて郷土の良さに気付かせたいと考え研究を進めました。

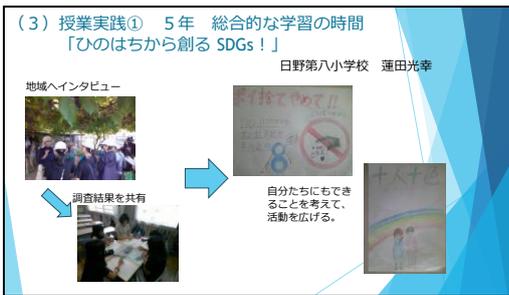
研究テーマにのっとり、各学校の実践について紹介します。

研究授業についてです。研究授業では、第3年総合的な学習の時間で「高幡不動尊はかせになろう」というテーマで行いました。研究授業では、リモートで近隣校の日野第八小学校の3年生と交流しました。八小3年生の社会科見学での学びを聞くことで、研究課題を考えることができましたようにしました。

課題設定では、「〇〇博士」になることを考えながら、積極的に交流を行い、主体的に課題に取り組むことができました。

課題解決では、実際に高幡不動尊へ移動し、グループごとに設定した課題解決を行いました。高幡不動尊の方のお話を聞いたり、地域の方の話を聞いたりして、新たな発見と人々の思いを聞くことができました。

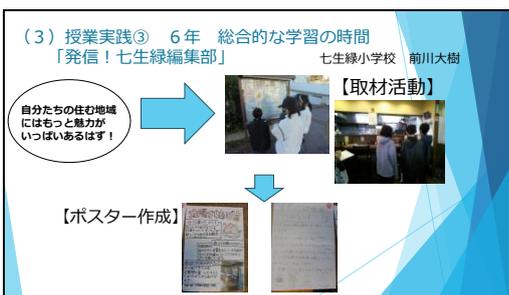
まとめでは、日野第八小学校の3年生に対して、自分たちが深めた高幡不動尊の魅力を発表したり、日野市立図書館に展示を行って地域の人に学びを広げることを行う予定です。



日野第八小学校では、4年生での地域の活動を振り返り、持続可能な社会をつくるための取り組みについて考えました。身近な地域へのインタビューをし、各グループが共有することで自分たちの身近でも様々なSDGsへの取り組みをしていることが分かりました。自分たちにもできることを考え、実践し、学校や地域へと広げていきたいという気持ちが高まり、スライドやポスター作りをして呼びかけました。身近な地域から教えてもらったことを学校で共有、呼びかけをし、自分たちができることを地域へと広げていくことで、地域を大切にしていきたいという思いを深めることができました。



夢が丘小学校では、社会「わたしたちの東京都の様子」で学習したことをもとに、学校の周りの地形について学習しました。東京都の地形は「山地」「丘陵地」「台地」「低地」のという4種類の地形に分かれていることを学習し、夢が丘小学校の児童が住む地域は丘陵地にあたることが分かりました。そこで、校外学習で南平丘陵散策コース・かたらいの路を実際に歩いて、地形の様子や地域の自然について学習しました。実際に歩くことで土地の高低差を感じたり、みはらしの良い公園から地域を眺めることで土地の高さや丘陵地に自分たちの住む場所があることを実感したりすることができました。また、自然豊かな道を歩いたり公園を訪れたりすることで、この地域は自然にあふれていることにも気付くことができました。学校の周りを見に行くことで、地域の良さや自分たちの住んでいる地域の特徴を知り、地域を大切にしたいという思いをもつことができました。



七生緑小学校では、総合的な学習の時間で、地域のお店などにインタビューを行い、その魅力を発信しようという活動を行いました。初めに、自分たちの学区で有名なところや魅力あるところを書き出して共有をしました。そこで出た意見をもとに、自分たちがさらに深く知りたい、インタビューを行いたいと考えたお店に実際に自分たちで電話をかけ、計画を立てました。そして実際にそれぞれの場所へインタビューに向かい、得た情報を魅力として発信するためにポスターを作成しました。今後、インタビューを受けてくださったお店に実際にポスターを持っていき、お礼と掲示のお願いをしに行く予定です。6年生まで過ごしてきた地域にもまだまだ知らない魅力があってそれを知る楽しさ、発信する良さを学ぶとともに、改めて自分たちの地域の良さを深く知ることができました。

(4) 実践 図書館での取り組み  
高幡図書館 沖田彩花

- ▶高幡図書館にて「日野の昔話」をテーマに展示を行った。(25冊)
- ▶特に程久保地域に関わりのある「生まれ変わりの勝五郎」について取り上げ、紹介ポスターを作成した。
- ▶放送中のドラマのモデルとなっている小泉八雲との関わりも紹介した。



研究の成果と課題

<p>成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験による主体的な学び</li> <li>・発信活動を通して、主体性と学びの深まり</li> <li>・校間の枠を超えた学びの広がり</li> <li>・発達段階に応じた郷土教育の系統性</li> </ul>	<p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年間・学校間での系統的なつながりの整理</li> <li>・デジタル技術の活用による継続的な情報共有</li> </ul>
---	---

図書館では、「日野の昔話」をテーマに展示を行いました。特に程久保地域に関わりのある「生まれ変わりの勝五郎」や、高幡不動に伝わる昔話を取り上げ、紹介ポスターを作成しました。「生まれ変わりの勝五郎」については、ドラマの登場人物のモデルになっている小泉八雲とも関わりがあります。このため、小泉八雲の関連本も併せて展示したところ、来館者からの注目度が高かったようでした。児童に限らず、日野市や高幡近辺に伝わる昔話があることを多くの人に紹介することができました。

最後に、研究の成果と課題です。

成果として1つ目は、「体験による主体的な学び」です。高幡不動尊の現地調査、丘陵地の散策、地域のお店へのインタビューなど、実際に「行く・聞く・見る」活動を通して、児童は地域の自然・歴史・人の思いに直接触れることができました。2つ目は、「発信活動を通して、主体性と学びの深まりが見られた」発表、展示、ポスター、スライドなど、学んだことを他者に伝える場を設定したことで、児童は「誰に、何を伝えるか」を意識して学習を進めることができました。他校児童や地域の人に向けた発信は、学習の目的を明確にし、学びを整理・深化させる効果がありました。3つ目は、「学校間の枠を超えた学びの広がり」潤徳小と日野第八小の交流のように、異なる学校の児童が学びを共有することで、客観的な視点から自分たちの地域の良さを再発見する機会となりました。図書館との連携により、学校教育が地域文化の継承する仕組みが構築されました。4つ目は、発達段階に応じた郷土教育の系統性が見えてきた」3年生では「知る・気付く」、4年生では「考え、行動する」、高学年では「魅力を発信する」といったように、学年に応じた郷土との関わり方が実践されました。

課題として1つ目は、「学年間・学校間での系統的なつながりの整理」各校・各学年で意義ある実践が行われている一方で、それらをどのように系統立てて積み上げていくかについては、今後さらに整理が必要と感じました。2つ目は、「デジタル技術の活用による継続的な情報共有」図書館展示やポスター掲示などの成果を、より多くの人に届けるための工夫（デジタル活用、他校との交流など）が今後の課題です。発信が「やって終わり」にならず、地域からの反応を受け取る場を設けることで、児童の学びをさらに深めていきたいです。

# 第3学年 総合的な学習の時間指導案

令和7年11月11日（火）5校時

日野市立潤徳小学校

第3学年4組31名

授業者 山崎留美

## 研究主題

「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

## Cグループ研究テーマ

「身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成」

### 1 単元名

「高幡不動尊はかせになろう」（全12時間）

### 2 単元の目標

知識及技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊の歴史、文化、役割について、様々な資料やインタビューを通して理解する。</li> <li>探究活動を通して得た情報を整理し、まとめる技能を身につける。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野市立日野第八小学校(以下「日野八小」)3年生の学びから、自分たちが追究すべき課題を設定する。</li> <li>発見した高幡不動尊の魅力を、日野市立第八小学校3年生や地域の人に向けて発信する。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の歴史や文化に興味をもち、友達と協力しながら、主体的に活動に取り組む。</li> <li>学びを日野八小の3年生や日野市立図書館に展示することの意義を理解し、郷土への誇りと愛着を深める。</li> </ul>

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>高幡不動尊の歴史や文化、人々の願いについて、資料やインタビューから必要な情報を正確に読み取っている。</li> <li>日野八小の3年生への発表や図書館への展示を意識し、内容が正確に伝わるように工夫して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達との学びと比べて、地域の大切なことや意味を考え、深く調べたい課題を理論的に決め、まとめに活かしている。</li> <li>高幡不動尊の魅力を伝えるために、集めた情報の中から最も必要な情報を適切に選び、写真や図などの表現を効果的に使って、分かりやすく説得力のある発信を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野八小3年生との交流や地域の人々との対話に積極的に参加し、主体的に協働して課題解決に取り組んでいる。</li> <li>学習を通して、高幡不動尊と人々の暮らしのつながりや、郷土の良さに改めて気づき、地域への愛着を深めている。</li> </ul>

#### 4 単元について

導入は「高幡不動尊に人が訪れるのはなぜか」という問いから始める。児童はこれまでの経験を生かし学習を進める。第2時では、近隣校の日野八小3年生の学びを聞き、これまでの知識と日野八小の3年生の学びを比較することで、より高い探究課題を設定する。これが主体的な学びの鍵となる。探究活動では、フィールドワークを核とする。実際に高幡不動尊を訪れ、建物や年中行事や歴史を五感で体験することで、「どんな思いが込められたのか」という課題を解決する。住職らへのインタビューを通し、人々の「家族の健康を願う思い」や「平和への祈り」を深く掘り下げる。学習の成果は、日野八小の3年生に発表し、互いの学びを広げる。さらにまとめは、日野市立図書館に展示してもらおう。公共の場への発信を意識することで、情報の正確性や表現力を高め、郷土の一員としての誇りをもって活動に取り組むことができると考える。

#### 5 児童の実態

児童は好奇心旺盛で、実体験を通じた学びを得意とする。これまでの社会科では、スーパーマーケット見学を通して、店の裏側にある工夫や、多くの人の働きで商品が届けられていることに気付いた。また、梨園見学では、農家の方の話を直接聞くことで、作物を育てる人々の願いや苦勞を感じ、言葉の裏側にある思いを想像することができた。梨園で学んだことを日野八小の3年生に説明した経験があり、相手に情報を伝える技能と交流の意義を理解している。こうした経験から、児童が主体的に問いを持ち、直接聞くことの価値を知る機会ができた。したがって、本単元で高幡不動尊を題材に、多くの人々が訪れる理由や人々の思いを探る活動は、彼らの学びと深くつながり、意欲的な探究活動につながる。一方で、「何百年も前の話」を想像する力や、図書館での展示といった多くの人に向けた魅力的な表現方法の工夫は、これから伸ばすべき力である。

#### 6 指導計画（総時数12時間）

時間	主な学習活動と内容	支援、留意点 ☆評価
1	「高幡不動尊にたくさんの方が訪れるのは、どうしてだろう。」という問いを考える。グループワークで「高幡不動尊で気になっていること」を共有し、本単元のゴール（高幡不動尊はかせ）を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの知識を共有することで、学習への意欲を高める。</li> <li>☆学びに向かう力、人間性等</li> <li>身近な地域の歴史や文化に興味を持ち、すすんで探究しようとしている。</li> </ul>
2 【本時】	リモートで日野八小の3年生と交流し、高幡不動尊の「おもしろさ」について発表してもらおう。グループで聞いた話を分析し、「自分たちがさらに何を深めるべきか」「どんな〇〇はかせ」になりたいかを話し合い、個人の探究テーマを設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言時以外はマイクをミュートにするなど、リモート交流のマナーを指導する。</li> <li>地図上で発表内容の場所を示しながら具体的な場所を結びつけられるよう促す。</li> <li>☆学びに向かう力、人間性等</li> <li>日野八小3年生との交流に積極的に参加し、主体的に課題に取り組んでいる。</li> </ul>
3 4	設定した探究テーマに基づき、高幡不動尊の歴史、年中行事、人々の願いに関する資料を読み込む。ペアで情報を交換し、情報の信憑性や重要性を検討する。フィールドワークで何を確かめたいかを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料はテーマごとに必要な情報を見付けやすい工夫を施す。</li> <li>☆知識及び技能</li> <li>高幡不動尊の歴史、文化、役割について、様々な資料から必要な情報を読み取っている。</li> </ul>

5	<p>高幡不動尊へ移動し、グループごとに設定した課題の解決を目指し、探究活動を行う。</p> <p>タブレット端末やメモ帳を活用し、年中行事の掲示や建物の様子を諸感覚で観察し、メモを取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に十分配慮し、観察ポイントを明確にする。</li> <li>・「なぜこの場所に〇〇があるのか」など課題解決につながる具体的な視点を与える。</li> </ul> <p>☆学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高幡不動尊や地域の人々との関わりに興味をもち、主体的に学習に取り組んでいる。</li> </ul>
6	<p>フィールドワークでの発見と、まだ解決できていない疑問を整理する。ゲストティーチャー（地域の方など）を招き、深い探究につながる質問を直接聞く。人々の「願い」や「思い」の背景にある物語を引き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問内容の事前指導を入念に行い、深い質問ができるよう支援する。</li> <li>・農家への聞き取り経験を活かし、相手の思いに寄り添った質問を促す。</li> </ul> <p>☆学びに向かう力、人間性等 ・地域の人々と交流し、郷土のよさに気づき、愛着を深めている。</p>
7 8	<p>個人で「高幡不動尊博士のお宝ノート」を作成する。収集したすべての情報（近隣校情報、写真、インタビュー内容など）を整理し、自分なりの言葉でまとめる。</p> <p>「図書館に展示される」ことを伝え、見やすく、正確な情報表現を意識させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図やイラストを効果的に活用するよう助言する。</li> <li>・「自分たちが生まれるよりもずっと昔の話」も分かりやすくまとめるよう支援する。</li> </ul> <p>☆知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動を通して得た情報を、目的に応じて整理し、適切にまとめている。</li> </ul>
9	<p>個人のお宝ノートをもとに、日野市立図書館への展示用のまとめをグループで制作する。図書館の幅広い利用者を意識し、キャッチフレーズやレイアウトを工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レイアウトやデザインを工夫するよう助言し、公共への発信という目的意識を明確にさせる。</li> </ul> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い市民を対象とした展示となるよう、デザインやキャッチフレーズを判断し表現に工夫を加えている。</li> </ul>
10	<p>第12時の日野八小3年生に向けた発表の準備を行う。日野八小3年生が既知っている情報ではない、「自分たちが深めたこと」を伝える工夫を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣校の児童の既有知識を考慮した発表になっているか確認し、指導する。</li> </ul> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野八小3年生に対して、説得力をもって伝えられるよう表現を工夫している。</li> </ul>
11	<p>授業を通して感じた「郷土の良さ」や「地域への愛着」について発表し、学習前の疑問がどう変化したかを振り返る。グループで作成した図書館展示物を最終確認し、展示に向けて完成度を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表は「高幡不動尊のどんなところが一番好きになったか」という視点でまとめるよう促す。</li> </ul> <p>☆学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して、郷土の良さに改めて気づき、地域への愛着を深めている。</li> </ul>
12	<p>日野八小3年生に対し、自分たちが深めた高幡不動尊の魅力（年間行事の願い、歴史の深い背景など）を発表する。質疑応答を通して交流を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣校との交流を通して、地域全体の学びの広がりを知る機会とする。</li> </ul> <p>☆学びに向かう力、人間性等 ・近隣の小学校の児童との交流を通して、郷土への連携意識と愛着を深めている。</p>

## 7 本時（全 12 時間中第 2 時）

### （1）本時の目標

日野八小 3 年生とのリモート交流を通し、課題を明確に設定し、探究の意欲を高める。

### （2）本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価
導 入 5 分	<p>1 前時の振り返りと交流の確認</p> <p>・「今日は、日野八小の 3 年生が高幡不動尊で学んだことを教えてください。発表から、自分たちが深めたい課題を見つけるのが目標です。」</p>	<p>○リモートの最終確認を行う。音声、映像の最終チェックを完了させておく。</p> <p>○聞く姿勢の明確化を行う。「自分たちの探究を深めるためのヒントをもらう」場であることを確認する。</p> <p>○「魅力」という言葉を説明する。</p>
	<p>高幡不動尊のみりよくを聞き、どんな○○はかせになるか考えよう</p>	
展 開 3 5 分	<p>2 リモート交流による情報収集</p> <p>・日野八小 3 年生が社会科見学で調べた高幡不動尊の魅力（例：五重塔、行事の種類など）について発表を聞く。</p> <p>・発表を聞きながら、境内のどの場所にあたるかを地図に印をつけたり、簡単にメモを取ったりする。</p> <p>3 グループで情報の整理</p> <p>・リモート交流で聞いた日野八小 3 年生の学びをグループで確認し、付箋で整理する。</p> <p>「場所」「新しくわかった点」「もっと知りたい点」など</p> <p>4 全体での共有 課題の確定と記述</p> <p>・どんな話が聞けたのか。もっと知りたいことは何か。班ごと発表する。</p> <p>・話し合いを基に追究したい課題「○○博士」を 1 人 1 つ決めワークシートに書く。</p>	<p>○「おもしろいね」「そうなんだあ」など、あいづちしながら課題になりそうなことを助言する。</p> <p>○私たちはどこを深掘りできるだろうか」といった視点で話し合う。</p> <p>○なぜそう感じたのか課題を深める視点を問いかける。</p> <p>○全員が同じテーマにならなくてもよいと伝え、面白い課題を見つけた児童を評価する。</p> <p>○探究テーマが定まっていない児童がいないか確認し、個別に支援する。</p> <p>☆日野八小の児童の発表を聞き、課題を明確に設定している。【発言・ワークシート】</p>
ま と め 5 分	<p>5 ・次時の確認を行う。</p> <p>この課題を解決するために、次からは資料（本やインターネット）を集める。</p> <p>次時への意欲を高める。</p>	<p>○課題解決に向けて「次はいよいよ資料集」と伝え、子供たちの期待感を高める。</p>

視点 1 日野八小の 3 年生から自分たちの探究のヒントを見つけられているか。

視点 2 友達の学びと比べて、自分たちがもっと深く調べるべき課題を見つけられているか。

板書

めあて  
高幡不動尊のみりよくを聞き、どんな〇〇はかせになるか考えよう

高幡不動尊はかせになろう

みりよく・・・人の気持ちを  
引き付けて夢中にさせる力

交流 ムーブノート

はん  
ひじかた 歳三像は、昔から強いけんしだっ  
たけどはこだてせんそうでしんでしまったからそ  
うがあります。

におうもんには、「におうさま」と  
「がおうさま」がたっています。2  
りのかみさまは、まもりがみです。



はん  
おはな  
い戸 山の上に家があってある日、雨が  
ふってどしゃくずれがおきて家の  
中にいた、かみさまがかけからこ  
ろびおちてはなをぶつけてそこに  
戸ができて暑い日もさむい日も水  
がへらないといっていました



はん  
五重の塔  
簡単につめいと屋根が5個  
ついている建物を五重の塔という  
五重の塔の近くには勉強の神様が  
いて祈ると頭が良くなるという噂  
です

勉強の神様の名前は弘  
法大師といいます  
仁王門にはふたりの神  
様がいて仁王様がとが王  
様が立っています  
その神様は高幡不動尊  
の守り神といいます



はん  
五重のとうは、やねがごこあるか  
らごじゅうのとうと、いわれてい  
ます。

また、近くには弘法大師という神  
様がいて、祈ったら頭がよくなる  
という、うわさがあります。




私のノート 高幡不動尊はかせになろう 作るモード

みんなの広場

大日堂 はかせ になりたい  
です。  
りゆう：大日堂は私はあまり聞いたことがないので  
ほかのは聞いたことが少しありますが大日堂りたい  
ています。

お鼻井戸はかせ にな  
りたいです。  
りゆう 八小の話聞いたから

五重塔はかせになりたいです。  
りゆう：色々なイベントをしているから。

仁王門 はかせ になりたいです。  
りゆう：仁王様のことも知りたいからです。

大仏 はかせ になりたいで  
す。  
りゆう：大仏のことがよく知りたいから。

おふどう様 はかせ になり  
たいです。  
りゆう：いろいろなかみ様のことをしりたいから  
です。

高幡不動尊フィールドワーク



## 4 Dグループの研究

令和7年度  
**Dグループ**  
身近な地域の歴史や文化を知り、  
郷土を愛するひのっ子の育成

世話人 荒川 真帆 (東光寺小学校)  
中山 真吾 (日野第一小学校)  
佐藤 全 (日野第三小学校)  
宮寺 翔 (日野第四小学校)  
千葉 智子 (日野第七小学校)  
渡部 康弘 (生涯学習支援課中央公民館)  
顧問 小杉 博司 (元日野第一小学校長)

1 研究テーマ  
身近な地域の歴史や文化を知り、  
郷土を愛するひのっ子の育成

- ・身近な地域の歴史や文化  
→昔の生活と現在の生活のつながり、昔の人の思いや考え  
「気付く」「学ぶ」「引き継ぐ」 児童の育成
- ・郷土を愛する  
→「愛すること」が難しい… 長い時間をかけて積み重なっていくもの  
⇒「関心をもつ」「(郷土のことを)考える」「誇りに思う」  
郷土教育の時間をこのような時間にしたい!

1 研究テーマ  
身近な地域の歴史や文化を知り、  
郷土を愛するひのっ子の育成

- ・「道徳科教材」の開発
- ・個人研究として授業の実施



2 研究授業～教材決定～  
◎「道徳科教材」の開発  
⇒日野市に関わる人物を教材に  
↓ 何人思いつきますか?!

- ・土方歳三 (新選組・石田村出身) 忍野清志郎
- ・近藤勇 (新選組・日野で剣術を磨く) 三浦友和
- ・井上源三郎 (新選組・北原出身) 佐々木千隼
- ・佐藤彦五郎 (新選組・日野宿名主・歳三の義兄)
- ・巽聖歌 (日野で校歌の作詞や児童詩の指導にあたる) など…

2 研究授業～教材決定～



Dグループの研究テーマは「身近な地域の歴史や文化を知り、郷土を愛するひのっ子の育成」です。

グループでの話し合いで、自分たちが育てたい児童の力や資質について話し合いました。

その中でも、昔と今をつなげて考えることや昔の人の思いや考えに対して、気付き、学び、それを後世へと引き継ごうという思いをもつこと、が大切ではないかと考えました。

さらに「郷土を愛する」についても話し合いました。

「愛する」と聞くと、具体的にどんなことをすれば郷土に対する愛が生まれるのかよくわからず、あいまいな言葉であることに気付きました。限られた短い授業時間の中で郷土愛を生み出すのではなく、ゆくゆくは愛に変化するであろう種をまくことが大切なのではないかと考えました。

郷土に対して関心をもったり、考えたりし、その後誇りに思うことができると考えました。

このような思いや考えのもと、「身近な地域の歴史や文化を知り、郷土を愛するひのっ子の育成」というテーマを完成させました。この研究テーマのもと、道徳教材の開発と個人実践の2つをグループとして取り組みました。

まずは、研究授業に向けた教材決定の経緯です。

初めは6年生の道徳としてスタートを切りました。

日野市に関わりのある人物を深掘りし、教材にできたらと考えました。

皆さんは日野市と関わりのある人物、何人思いつきますか?(5秒ほど待つ)

歴史上の人物だけでもこれだけ多くおり、現代でも関わりのある著名人はたくさんいます。

誰なら広く知られており、児童が興味・関心をもち、道徳科でも扱うことができるのか考えました。

## 2 研究授業～教材決定～

### ◎「道徳科教材」の開発

⇒道徳科の内容、知名度、興味、関心…



**土方 歳三** に決定！

- ・武蔵国多摩郡日野宿（現在の日野市）で薬売りとして働く
- ・子どもの頃には大人にもケンカを売るほどのやんちゃな子供
- ・日野宿の剣術道場にて近藤勇と出会い…

考えた末に、土方歳三が適任だと決めました。

日野市で生まれ、武蔵国多摩郡日野宿（現在の日野市）で薬売りとして働いた歳三。

子どもの頃には大人にもケンカを売るほどのやんちゃな子供だったそうです。

日野宿の剣術道場にて近藤勇と出会い、武士の道を自身の努力と強い意志で切り開いた「鬼の副長」です。

## 3 研究授業～教材研究～

### ◎「道徳科教材」の開発



**土方 歳三** 道徳との関わり

- ・身分制度の厳しい時代、百姓の家に生まれる。
- ・努力を惜しまず、「**武士になりたい**」という**強い意志**
- ・「**武士になる**」という**夢を追い続け**、かなえることができた。
- ・「鬼の副長」と呼ばれるも、**仲間を思う心**

➡ **内容項目【A 努力と強い意志】**  
**【B 友情、信頼】**

土方歳三と道徳科のかかわりについてです。

歳三は、身分制度の厳しい時代に百姓の子として生まれました。つまり、身分は一生「百姓」です。

しかし、確かな剣術の腕と「武士になる」という強い意志で努力を続けます。近藤勇との出会いを経て、武士となる夢をかなえました。

仲間のためにあえて厳しく振舞う一面もあったそうです。そこから、▼内容項目A努力と強い意志、またはB友情、信頼が当てはまると考えました。

事前授業として四小5年生に向けて授業をしました。

土方歳三という名前は知っていても、肖像画や写真を見る機会は少なく、写真を見せただけでも良い反応が見られました。

日野市との関わりについても身近な内容のため、よく聞いている児童が多かったようでした。

目標を達成するために努力や強い意志をもって行動することが大切なことを、土方歳三を教材として児童に伝えることができました。

しかし、郷土に関する内容は授業の導入部分のみなので、郷土教育という側面から見ると、不十分だったように感じました。

## 3 研究授業～教材研究～



まんが／星野泰視  
監／落合弘樹  
『小学館版  
学習まんが人物館  
土方歳三と新選組』  
小学館

## 4 【実践①】研究授業（事前授業）

日野第四小学校 富寺 翔

歳三の武士になるための  
努力や強い意志

5年 道徳  
主題名「強い意志で」【A 努力と強い意志】  
教材名「日野で育った 土方歳三」



目標を達成するために  
必要なこと

まんが資料を  
挿絵として活用

日野との  
関わりや  
生い立ち  
を確認

### ◎成果と課題

- 児童の興味・関心を惹くことができた。
- 日野の歴史や文化を知ることができた。
- 郷土に関する気付きや考えを生む内容ではなかった。

4【実践①】4年 総合「日野用水について調べよう」 東光寺小学校 荒川真帆

- 東光寺小の池の水やコイがどこから来ているのか予想し、日野用水について調べる動機付けをした。
- 日野用水沿いを歩きながら、多摩川とつながっていることや普段遊んでいる公園にも日野用水がながれていることを知り、日野用水を取り巻く環境を学んだあとに学習の計画を立てた。
- 調べたいテーマ「歴史」「動植物」「環境保全」「作り」に分かれてインターネットや書籍を用いて調べ、日野用水についての知識を深めて、スライドで発表した。

自分たちの住む地域への  
興味・関心  
「大切にしたい」「守りたい」  
郷土を愛する心



【成果】

- 身近な地域を取り上げ、「身近なのに知らないことがある」を強調することで児童の興味関心が高まった。
- 日常的に目にしていて、疑問が生まれやすく、児童が主体的に調べ学習に取り組んでいた。日野用水について探究を進め、日野が「緑と清流のまち」を掲げる背景を知ることができた。

【課題】

調べ学習の中心がインターネットや本だったので、日野用水と関わりのある人を聞いて話を聞けたらよかった。コネクションが必要。

東光寺小学校では、4年総合で日野用水について調べる学習を行いました。東光寺小の池の水やコイがどこから来ているのか予想し、日野用水について調べる動機付けをしました。日野用水沿いを歩きながら、多摩川とつながっていることや普段遊んでいる公園にも日野用水の水が引かれていることを知り、日野用水を取り巻く環境を学んだあとに学習の計画を立てました。調べたいテーマを児童が出し合い、「歴史」「動植物」「環境保全」「作り」に分かれてインターネットや書籍を用いて調べ、スライドにまとめ発表しました。調べ学習の際は、インターネット以外に「わたしたちの東光寺」や「わたしたちの日野」の副教材も用いて日野用水について学びました。成果としては、身近な地域を取り上げ、「身近なのに知らないことがある」を強調することで児童の興味関心が高まりました。また、日常的に見ていることで、疑問が生まれやすく、児童が主体的に調べ学習に取り組んでいました。日野用水について探究を進め、日野が「緑と清流のまち」を掲げる背景を児童が実感でき、「日野用水にいる生物を守るためにゴミなどを出さないようにしたい。」「用水が日野のいろいろな場所を通り、日野らしさを作っていることを知った。」と感想をもちました。課題としては、調べ学習の中心がインターネットや本だったので、日野用水と関わりのある人を招いて話を聞いたら、より日野用水の理解や思いが深まると感じました。これからつながりを作っていく必要があります。

4【個人実践②】4年 社会「受けつがれる祭り」 日野第七小学校 千葉裕子

- 府中くらのやみ祭りで学習したことを基にして、日野市にある文化財「高幡不動尊」「八坂神社」について、府中くらのやみ祭りと比較しながら調べる。
- 地域の人が受けついで来たことや、それらに地域の発展など人の命が込められていることを知り、文化財や年中行事を保存・継承していくために自分たちができることについて考える。

自分たちの住む地域への  
興味・関心  
「大切にしたい」「守りたい」  
郷土を愛する心

- 高幡不動尊HP
- 日野市観光協会HP
- 歩こう調べようふるさと七生 上記資料を基に調べ学習を実施



【成果】

身近な場所にある文化財に強い関心をもって、意欲的に調べることができた。また、地域の歴史や人々の思いに気付く、自分たちにもできることを具体的に想像して考えることができた。

【課題】

児童のもっと調べたいという思いに添って、授業時間を十分に確保することが難しかった。

日野第七小学校では、4年社会「受けつがれる祭り」の学習で、府中くらのやみ祭りについて学んだ後、最終の「いかす」の段階で「高幡不動尊」「八坂神社」について調べ学習を行いました。「高幡不動尊」や「八坂神社」は3年生の校外学習、祭りに行った身近な寺社であり、くらのやみ祭りと比較することで、自分たちの住む日野市、身近な場所にも歴史のある魅力的な文化財や祭りが存在することを再認識しました。意欲的に調べ学習をする上で、HPだけでなく「歩こう調べようふるさと七生」の副教材から分かりやすく歴史を学び、自分たちにもできることとして「貴重な文化財として大切にしていこう」「家族や友達とお参りや祭りにいこう」「祭りで神輿を担いだりして参加する」「自分の身近な人や他の地域の人にも魅力を伝えたい」と具体的に郷土への思いを強くすることができました。

## 5 成果と課題

	成果	課題
研究授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野市に関わりのある人物を教材として活用した。 ⇒児童の興味・関心を惹くことができた。</li> <li>歴史上の人物はまんが教材があるため、道徳科以外にも使いやすい資料が多い。 ⇒児童に提示する内容を広げたり、狭めたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳科では、郷土教育としての側面が薄くなってしまふ。</li> <li>ほとんどが開発教材になってしまふため、教員の負担が大きくなってしまふ。</li> </ul>
個人実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野用水について探究を進め、日野が「緑と清流のまち」を掲げる背景を児童が実感できた。</li> <li>身近な場所にある文化財に強い関心をもって、意欲的に調べることができた。</li> <li>地域の歴史や人々の思いに気づき、自分たちにもできることを具体的に想像して考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関わりのある方を招いて話を聞けたらよかった。</li> <li>⇒ゲストティーチャー等の一覧</li> <li>児童のもっと調べたいという思いに添って、授業時間を十分に確保することが難しかった。</li> <li>⇒既存の単元計画との調整・見直し</li> </ul>

研究授業の成果としては、

①日野市に関わりのある人物を教材として活用することで、児童の興味関心を惹くことができた。

②歴史上の人物は、まんが教材があるため、使いやすい資料が多く、道徳科以外の教科でも取り上げることができる。

ということが挙げられます。

一方、課題として

①道徳科で扱うことで、「郷土教育」の側面が薄れる。

②読み物資料として取り上げる教材を開発するので、教員の負担となる。

と感じました。

個人実践の成果としては、

①日野用水に迫る探究学習で、「日野＝緑と清流のまち」を児童が実感できた。

②身近な場所の文化財に改めて強い関心を持ち、意欲的に調べることができた。

③地域の歴史や人々の思いに気づき、自分たちにもできることを具体的に想像できた。

ことが挙げられます。

一方、課題としては、

①関係のある方、詳しい方を招くことができるよう、ゲストティーチャーの一覧があり、すぐに確認できるとよい。

②既存の単元計画の中で、郷土教育につながる内容を十分に確保できるように調整したり、見直しをしたりする必要がある。

といったことが挙げられました。

# 第6学年道徳科学習指導案

日時 令和7年11月11日(火) 5校時 13:35~14:20

場所 日野市立日野第三小学校 6年2組

教室児童 第6学年2組 計30名

指導者 日野市立日野第三小学校 教諭 佐藤 全

## 1 主題名 「日野で育った 土方歳三」 (A領域 強い意志)

## 2 指導目標

歴史上の人物・土方歳三の生き方にふれ、その強い信念と仲間を思う心、最後まで貫いた覚悟を通して、自己の在り方や信念について振り返り、人としての生き方について考える。

## 3 教材化の意図

道徳科において、高学年における偉人を取り扱った教材は多く存在しており、手塚治虫や田中正造などは、授業者も指導した経験がある。日野市において、土方歳三は外すことのできない存在であり、その功績は数々の資料や文献によって明らかにされている。また、功績のみならず、その意思の強さや規則を重んじる姿などから、人として学ぶべきものがあるのではないかと考える。彼の人物像に迫り、信念とは何か、この先どのような信念をもっていきたいかなど、自己を見つめ、これからの生き方について児童に考えさせていきたい。また、郷土教育推進委員会の過去の資料を見ると、土方歳三を題材とした道徳科の授業の研究がなされていないようである。そのため、小学校道徳科における土方歳三を題材とした学習はどうあるべきかを考える機会となると考えた。

## 4 教材観

土方歳三は、新選組副長として激動の幕末を駆け抜けた人物である。幕府の崩壊という時代のうねりの中でも、自らの信念「武士としての忠義と仲間を守る心」を貫き通した。彼は剣の腕に優れた人物であると同時に、厳格で仲間思いであり、また無名の一農民から副長にまで登り詰めた背景は、努力と意志の強さを象徴している。この教材を通して、児童に「何のために生きるのか」「本当に大切なものを貫くとはどういうことか」を考えさせ、強い意志を持ち続けた土方の生き様に触れて、己の在り方を省みる気持ちを育てたい。気を付けなければならないのは、今回の道徳科の学習の中では、局中法度の内容の詳細に触れないことである。世間では、新選組が行ってきたことに対して様々な意見がある。指導目標がずれてしまわないように、詳しいことは社会科の学習で触れることとし、本時では土方の生き様について児童が注目できるよう読み物資料を提示する。

## 5 児童観

本学級の児童は、目的意識が低く普通の学習から意欲の低い特徴が見られていた。また、思いやりの行動や協力して課題を解決していこうとする意識も低い。1学期では、学習に取り組む態度、やるべきことはやるという意識を身に付けさせられるよう、よい姿を称賛し意識付けを行ってきた。また、日々の道徳の学習の中で、児童に必要な題材を提供し、自分たちの行動について振り返ってきた。学校生活や学習において、望ましい行動をする児童もいるが、そうでない児童がいるのも事実である。改善傾向が見られつつも、個別にも、集団的にもまだ細かな指導が必要な段

階である。

このような状況の本学級の児童に対して、目標（信念）をもつこと、また、それらを達成するためにはどのような力が必要かを考えさせ、自身の生活を振り返って学校生活の状況を明らかにするはたらきかけの一つとしていきたい。また、どのような自分になっていきたいかを考える機会となればよいと考える。

## 6 本時

時	主な学習内容	◇教師の支援
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を達成できる人に必要なことって何だろうか。</li> <li>・お金を稼ぐ ・目標をもっている</li> <li>・アイデアを作ることができる ・努力できる</li> <li>・新しいことに挑戦する ・運がいいこと など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○土方歳三の紹介</li> <li>・日野出身 ・新選組に所属</li> </ul>	<p>◇何をもって達成と言えるのかという話にはできるだけ踏み込まないようにする。</p>
発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物資料を読み、状況を整理する。</li> <li>・登場人物 ・はじめの身分 ・何を目指したのか</li> <li>・所属した組 ・新選組の仕事</li> <li>○「武士に馬鹿にされて、歳三はどのように思っただろうか。」</li> <li>・悔しかった ・武士になって見返してやりたい</li> <li>・武士になってやる</li> <li>○「武士になった歳三は、どんな気持ちだっただろうか。」</li> </ul>	<p>◇新選組を結成し、武士となった場面までの資料とする。</p> <p>◇身分は簡単には変えられないという時代背景について触れる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           土方歳三が人よりも優れていたこと（力）とは何だったのだろうか。         </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い ・運がいい ・挑戦する</li> <li>・武士になりたいという強い気持ち</li> <li>・アイデアをもつ ・努力すること</li> <li>・目標をもつこと ・剣術が強い</li> <li>・意思を貫く ・強い意思を持ち続けたこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意見をまとめ、分類する。</li> <li>「自分ができること」「努力」「運」など、出た意見を板書に分類していく。</li> <li>○「今の自分と比べてどうか」や「今後自身の生き方に参考になることはないか」など、考えをまとめ、発表する。</li> </ul>	<p>◇まずは個人で考え、班でまとめ、クラス全体で共有する。</p> <p>◇後で動かしやすいように、短冊に書き込む。</p> <p>◇班で出た意見を板書にまとめ、分類する。</p> <p>◇分類する際は、それぞれまとめるどのような表題がつくかを考えさせる。</p>

<p>終末</p>	<p>○土方歳三のその後の話を聞き、学習をまとめる。</p> <p>強い信念があったからこそその決断、行動だった。</p> <p>最終的には、戦いに敗れて亡くなってしまう。けれども、その意思を貫いた生き様に魅了されて、今でも世界から資料館を訪れる人がいる。</p> <p>土方の生き方を通して、「自分ならどう信念をもち、どう行動するか」を考えて行ってほしい。</p>	<p>◇土方歳三に関連した資料を最後に提示する。</p>
-----------	---	------------------------------

## 7 板書計画

日野で育った土方歳三  
目標を達成できる人

- ・お金を稼ぐ ・目標をもっている
- ・アイデアを作ることができる
- ・努力できる ・運がいいこと
- ・新しいことに挑戦する

土方歳三

土方歳三の  
写真

- ・百姓をしながら薬を売っていた。
- ・武士になることを目指していた。
- ・剣術を習う。
- ・近藤勇とともに、京都の警護に応募。
- ・新選組を名乗るようになった。
- ・武士になることができた。

日野出身 新選組副長

歳三が人よりも優れていたこと（力）とはなんだろう

- ・出会い
- ・挑戦する
- ・武士になりたいという強い気持ち
- ・運がいい
- ・アイデアをもつ
- ・目標をもつこと
- ・剣術が強い
- ・努力すること
- ・意思を貫く
- ・強い意思を持ち続けたこと

運

努力

信念

- ・今の自分と比べてどうか
- ・今後自分の生き方について参考になること
- ・活かしていきたいこと
- ・考えたこと など

# 「日野で育った 土方歳三」

ひじかたとしぞう

1850年ごろ、江戸時代末期の日本は、200年以上、一部の国としか貿易を行っておらず、外国とのやり取りを制限していました。しかし、1853年、アメリカの黒船が浦賀（今の神奈川県横須賀市）に来航し、日本に開国を求め、翌年、アメリカとの貿易が始まりました。

そんな変化の時代に、土方歳三<sup>へんか じだい ひじかたとしぞう</sup>は、武蔵国多摩郡日野宿（東京都日野市）の百姓<sup>むさしのくにたまぐん ひ のじゆく ひやくしやう</sup>の子として薬売りをしながら暮らしていました。剣術にたけていて、腕っぶしの強かった歳三は小さなころから大人にもケンカを売るようなやんちゃな日々を過ごしていました。歳三は、侍になることを夢見ていましたが、当時は身分制が強く、百姓や薬売りが侍になることなど考えられないことで、周りの人々からは「武士には絶対なれない。」<sup>ぜつたい いっしやう</sup>「一生、百姓のままだ。」<sup>いっしやう</sup>とばかりにされていました。それでも歳三は剣術の練習を続けました。ある日、歳三が通っていた日野宿の道場<sup>ひのじゆうのぢやう</sup>に、天然理心流<sup>てんねんり しんりゆう</sup>の師範である近藤勇<sup>こんどういさみ おとす</sup>が訪れました。勇から声がかかった歳三は、弟子となり、さらに剣術を磨きました。

1 1835年～1869年

2 いっぱんの人々。庶民。農民という意味で使われる子もある。

3 現在の日野駅の近く。歳三の姉が嫁いだ家が道場を開いていた。

4 剣術のほかに柔術、棒術、気合術を含む総合武術で、実戦で使える技を重視していた。

1863年、歳三が28歳のとき、江戸幕府將軍の徳川家茂が、京都を訪れることになりました。当時の京都は治安が悪く、將軍の警護のために、剣術の心得があるものを身分関係なく募集しました。これに歳三は勇らとともに手を挙げ、「京都守護職」を務めていた会津（今の福島県西部）藩主・松平容保に頼み、「壬生浪士組」として侍のような役割を果たしました。

京都の町の警護と將軍の警護を無事果たした歳三たちは、「新選組」という名前をもらい、歳三は副長になりました。京都の警護を活発におこなった新選組は、朝廷からも認められ、將軍直属の家臣として命ぜられました。歳三はついに、長年夢見ていた侍になることができたのです。

#### 〈参考文献〉

まんが／星野泰視 監／落合弘樹 『小学館版 学習まんが人物館 土方歳三と新選組』 小学館

1 天皇をうやまい、外国を排除しようとする浪士達（主人のいない武士）が京都に集まっていた。

## V 夏季研修会（ふるさと文化財課と連携）

ふるさと文化財課 金野啓史

### 1 旭が丘・多摩平地区の近現代の動き

はじめに

令和 7 年度のフィールドワーク（夏季研修会）では、旭が丘の帝人ファーマ東京研究センターから豊田の富士電機東京工場までを巡った。前年の多摩平地区に続き、近代・現代に開発が進んだ日野台地上の地域がフィールドとなった。

本稿では、フィールドワークで訪れた場所を取り上げ、旭が丘・多摩平地区の近現代の動きを再度確かめてみたい。

#### （1）日野市の地形と近世・近代の土地利用の概要

日野市の地形は沖積地（低地）、台地、丘陵に大きく分けられる。多摩川と浅川の流域に広がる沖積地では、中世末期から用水が開削され、その水利を活かした水田稲作が盛んに行われた。江戸時代から続く集落は、多くはこの沖積地に位置している。また、市域南部の丘陵部には雑木林が広がり、薪炭、肥料等の供給地となっていた。

日野台地は、秣場として台地周辺の集落の入会地になっており、雑木林や草刈り場、畑などが広がっていたが、養蚕が隆盛を迎えた明治 20 年代から一面の桑畑へと変わっていった。台地の北寄りには甲州道中（甲州街道）が通っていたが、現在の旭が丘・多摩平地区には昭和初期まで人家が無かった。

図は浅川沿岸の沖積地（平山中学校付近）から豊田駅を経て富士電機東京工場にかけての地形断面図である。富士電機がある段丘崖上位面と、豊田村の古い集落がある沖積地との間には、およそ 30m の高低差がある。また、豊田駅は富士電機より 17m ほど低い段丘崖下面にあり、ホーム上の橋上駅舎にある改札口を出ると、豊田村へは階段を下り、多摩平方面へは階段を上る構造になっており、河岸段丘の地形を実感することができる。

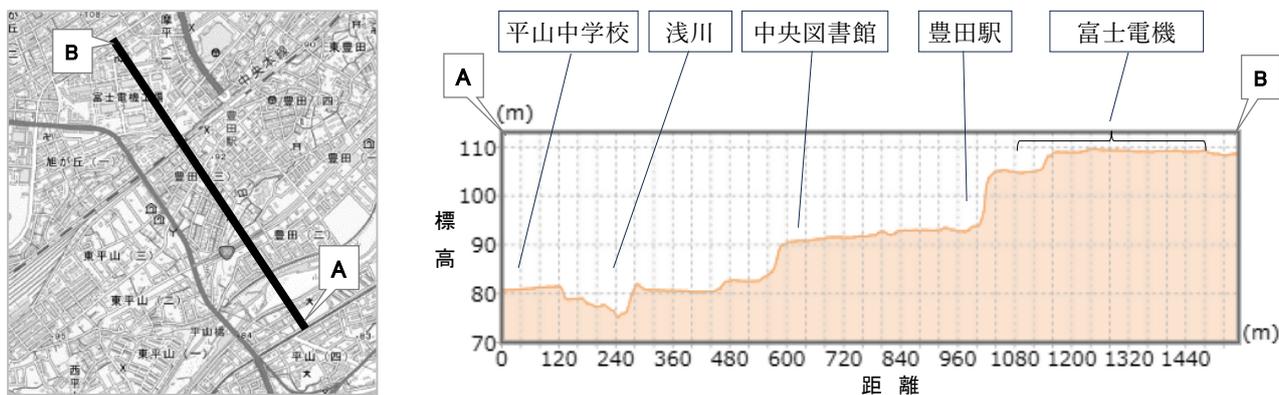


図. 豊田・多摩平地区の地形断面図 ※国土地理院地図(電子国土 WEB)を使用

#### （2）まつり塚

まつり塚は富士電機東京工場の構内にあり、稲毛往還(稲城往還)に面し、かつては往還を挟んで一対の塚があり、松が植えられていた。この場所は旧豊田村と旧平山村の村境に位置し、江戸時代の豊田村絵図（個人蔵）には、絵図の西隅に「祭塚」と記されている。かつてこの場所では、街道をはさんだ 2 本の松の間に注連縄を張り、「道切り」が行われたと伝えられる。「道切り」とは村の境界に呪物を設置して疫病や悪霊の侵入を防ごうとする行為を言い、災厄や疫病は村の外からもたらされ、それらを呪術的な行為によって村内に入れず、もしくは村外に送り出すことによって村の安寧を保とうとした往時の人々の心意に基づいている。

まつり塚は、浅川に近い豊田村の集落から離れた地点にあるが、ここで「道切り」が行われていたことから、この塚までが村の内側としてとらえられていたものと理解できる。沖積地にある集落のみならず、台地上の耕作地、秣場も生産の場であり、生活に不可欠な村の構成要素として認識されていたことを示している。

### (3) 近代の日野市

明治 20 年代になると、地域の有力者、豪農層が牽引役となり近代産業が芽生えた。旧日野宿では日野銀行の設立(明治 15 年)、日野煉瓦工場の設立(明治 20 年)、豊田村では山口ビール(豊田ビール)の製造開始(明治 19 年)などの動きが見られた。

明治政府が養蚕・製糸業の振興を富国強兵・殖産振興の重要施策としたことを背景に、日野市域では明治 10 年代から養蚕が盛んになり、日野町では養蚕・製糸技術の向上・普及を目的とした養蚕伝習所である扶桑社が明治 28 年(1895 年)に設立した。

日野市域の養蚕は、明治 10 年代は八王子の製糸工場に原料の繭を出荷していたが、明治 30 年代になると農家で製糸して八王子の織物業者に出荷するようになった。この頃の農家の収入に占める養蚕の割合は 35% (桑葉の販売収入含む) であり、耕地面積の 20% を桑畑が占め、当初の河川沿岸から台地上へとその範囲を拡大していった。さらに昭和初期になると、市域の全農業戸数に占める養蚕戸数は 74.5% に及び、日野台地上は一面の桑畑となった。

### (4) 大工場の進出

昭和 5 年(1930 年)に始まった昭和恐慌では、穀物や繭などの価格が大暴落し、稲作と養蚕を主体としていた日野町と七生村は大きな打撃を受け、養蚕業は一気に衰退した。生活困窮者が急増し、両町村の財政は著しく悪化した。日野町では失業救済農村振興事業(農家への低利貸付)や、救農土木事業(公共工事による生活困窮者の雇用)などを行ったが、苦境克服の決め手となったのは大企業の誘致であった。これにより、昭和 11 年(1936 年)から 18 年(1943 年)にかけて、「日野五社」と呼ばれる吉田時計店(後のオリオン時計)、六桜社(現在のコニカミノルタ)、日野重工業(現在の日野自動車)、富士電機、神戸製鋼東京研究所(後の神鋼電機)が相次いで進出した。このうち吉田時計店を除く 4 社は、養蚕の廃業により不要となった台地上の桑畑に立地した。

これら工場の進出に伴い、従業員の住まいとして社宅が建設され、日野台地上にも人家が見られるようになった。今回のフィールドワークでは訪れなかったが、現在の日野台 2 丁目、6 丁目、豊田 4 丁目には日野重工業の社宅が拡がり、現在でもその街並みを見ることができる。また、農家などの新たな副業として、貸家やアパートなどが設けられたのもこの頃だった。

富士電機東京工場は、川崎工場の疎開分散をはかる国策上の要請から設立された分工場の一つで、昭和 18 年(1943 年)に航空機関係の機械設備を移転し豊田工場として操業を開始した。台地上にあるため、深さ 350 尺(約 115m)の井戸を掘って工場内に給水したという(※)。同社は戦後の一時期に民需品の生産を行っていたが、その後計測機器、制御機器等の生産を行い、現在は、主にシステムの開発・設計、生産等を行っている。

(※)『東京工場 50 年のあゆみ』平成 6 年 50 年史編纂室 富士電機東京工場発行

### (5) 衛星都市構想

昭和 30 年代になると、多摩平団地と旭が丘地区の工業団地の建設が始まり、この地域は大きく変貌した。これには昭和 33 年(1958 年)に定められた首都圏整備計画が深くかかわっていた。戦後復興に伴う東京の急激な人口増加を受け、首都建設法(昭和 25 年)、首都圏整備法(昭和 31 年)が制定され、その実施計画として策定されたのが第一次首都圏整備計画であった。

この計画は都心部の過大化・過密化抑制のため既存市街地の周囲に近郊地帯(グリーンベルト)を設け、周囲に独立性の高い市街地開発区域(衛星都市)を建設して人口・都市機能の分散をはかるというもので、「日野五社」などの工業の集積がある八王子・日野地区は、昭和33年に市街地開発地域に指定され、衛星都市第一号となった。

これと並行して現在の多摩平地区では、住宅都市整備公団による多摩平団地(現在の多摩平の森)の建設が昭和31年(1956年)から始まり、昭和33年(1958年)に第一期の入居が行われた。一方平山台地区(現在の旭が丘)では、昭和38年(1963年)に制定された「日野町工場誘致奨励に関する条例」「日野町工場育成奨励に関する条例」に基づき土地区画整理事業が開始され、工場の誘致が行われた。区画整理事業は昭和48年(1973年)に竣工し、区画整理区域は「旭が丘」と命名された。旭が丘中央公園内にはこれを記念した「しゅん工記念碑」があり、「旭が丘」誕生の経緯が刻まれている。また旭が丘5丁目には工場誘致に尽力した委員会の記念碑が建立されている。

#### (6) 旭が丘の工場・研究所

今回のフィールドワークで見学した帝人東京研究所は、平山工業団地にいち早く昭和35年に開設した帝人の中央研究所で、現在は医療分野の研究のほか、素材研究や機器分析などを行っており、平成22年(2010年)にノーベル化学賞を受賞した根岸英一氏も在籍していた。

ファナックは昭和47年(1972年)に設立した工場自動化設備のメーカーで、当初は旭が丘に本社が置かれた。コンピュータ数値制御装置や産業用ロボットで世界首位のシェアを持っている。またGE横河メディカルシステムは最先端の医療機器を開発、製造しており、平成元年(1989年)にかつて千代田自動車工業があった平山工業団地の一角に本社工場が移転した。

なお、現在三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)がある区画には、平成23年(2011年)まで東芝日野工場があった。昭和39年(1964年)に電話機の製造工場として操業し、後に携帯電話などの通信機器をはじめ、海底ケーブルや衛星通信などの開発・生産へと事業を展開した、東芝の通信事業の中核となる事業所であった。

#### むすびにかえて

旭が丘・多摩平地区は台地上であるため水利には恵まれなかったが、秣場として、あるいは桑畑として、日野市域の村々の生活と生産を支えていた。昭和期になると、日野市の産業を支える大工場の用地となり、さらに首都圏が膨張を続ける時代背景のもとで、良好な住宅地としてその用途を高めていった。この地域が大きく変化したのは昭和初期からであり、歴史の学びとしては扱いにくい点もあるかもしれない。しかし、大工場の立地、衛星都市の建設、そして宅地化といった旭ヶ丘・多摩平地区の変遷には、近現代の日本の歩みがあるまに映し出されており、テーマの設定次第で多様な学びへと展開することができるのではないだろうか。



昭和40年頃の平山台工業団地  
※日野市制作映画「躍進する日野」から



帝人ファーマ東京研究センター



しゅん工記念碑(旭が丘中央公園)

## 2 平山台(旭が丘)のフィールドワークと地形図から学習課題を設定する

郷土教育推進研究委員会委員・顧問 小杉博司

### 1 研修のねらいと概要

今年度のフィールドワーク・演習は、「平山台(旭が丘)」を中心とする地域の教材化である。この地は、昨年度取り上げた「多摩平」と「日野台」地区の隣接地でもある。日野台地全体を関連づけ、歴史・開発・発展・まちづくりの教材化の視点・方法を学び、授業を構想する。

フィールドワークのコースは、「帝人 東京研究センター」「旭が丘中央公園 たきび詩碑 しゅん功記念碑」「ファナック日野支社」「富士電機東京工場 まつり塚」である。夏季研修会の座学では、このフィールドを含めた旭が丘・多摩平・日野台地区を振り返り、昭和の地形図を周辺地域を含めて読み取ることから始めた。まず、理解しておきたいことは、①昭和35年(1960)、平山台工業団地で一番に建設されたのが「帝人東京研究センター」であり、ノーベル賞受賞者が生まれたこと、②昭和9年(1934)、隣の小宮村中野(現八王子市)から日野台地に競馬場が移転してきたこと、③昭和23年(1948)、競馬場の隣接地に巽聖歌が家族と共に転居してきたこと、聖歌は児童詩・綴り方の指導者として学校教育にも関わり、日野四小・七生中の校歌の作詞をしたこと、④日野台地は、大工場の進出、閉鎖・移転、多摩平団地の建設・建替等、激動の時代を経て今のまちがあること、台地上の小・中学校もこの激動の歴史と共に生まれ、歩んできたこと等である。

次に、地図を活用し地域の教材化の視点や方法を学ぶことである。まちの変化・発展が読み取れる戦前と戦後の昭和の地図を2枚用意した。地図は、縮尺を同じにすると2枚の地図を重ね、「まち」の変化が読み取ることができる。年表を併用すると、さらに具体的に理解できる。

#### (1) 地図を読み取り、学習課題を整理し、学習指導計画を作成する

まず、「昭和15年3月測図 都市計画東京地方委員会 1万分の1地形図」を読み取る。位置関係や土地利用を分かりやすくするため、中央線・豊田駅、浅川・豊田用水等の位置を確認する。学校の場所を確認することも位置関係を理解するうえで重要である。桑畑・水田・浅川・豊田用水等を色鉛筆で着色すると、事実や事実間の関係が読み取りやすくなる。

地図の読み取りが難しい時は、もう1枚の地図「昭和40年5月人文社発行 1万分の1日野市全図」を活用し比較・検討する。学校・住宅団地・社宅等が増えたことがわかる。昭和40年7月まで小字地名が残っていて、昔の歴史を知る重要な手がかりとなる。この地図は、私が若いころ使っていた市販の都市図である。古い地図は研修会や授業で大変役に立つ教材となる。地図を読み取り、「わかったこと」「思ったこと」「疑問」を「ペア」「グループ」「全体」で話し合う。教師は板書に専念し、疑問をまとめていく。この疑問を整理していくと「学習指導計画」が出来上がる。

#### (2) 子供が自ら課題を設定し追究するための基礎・基本

(2)で書いた学習パターンは、よき学級経営と授業規律の徹底があれば容易に実践できる。何でも発言できる、話し合える学級づくりと、話し合いの訓練が必要である。話し合いの楽しさが分かれば、子供たちは自らの力で授業を進め、課題解決していくことができる。私は、この力が「生きる力」「深い学び」「学力」であると考えている。一見、子供たちが活発に活動しているように見えるが、何を学んだのかわからない授業がある。「活動あって、学びなし」ではなく「学び合いのある授業」を実践し、学力を身につけていく授業の創造が必要と考える。年度初めに話し合いの仕方を徹底させる「授業規律」を身につけさせ、具体的で本物の郷土教材で、よくわかる楽しく授業を、子供と教師が一体となり創り上げたい。

(4) 昭和 15 年(1940)の地形図と昭和 40 年(1965)の都市地図から「わかったこと」「思ったこと」「疑問」を話し合い、課題を設定し追究する (添付地図を参照)

【1】 予想される子供の発言

- ① 桑畑がいっぱいある。浅川のまわりは田んぼが多い。
- ② 横文字の書き方が左右逆になっている。「南多摩」「日野町」「七生村」等。
- ③ 地名が番号になっているところがある。(S40)
- ④ なぜ、平山台(旭が丘)に「高幡」「南平」の地名があるのか。(別紙資料)
- ⑤ 豊田小(日野二小)がない。なぜ、日野小学校豊田分教場なのか
- ⑥ 平山小が「ひらやま」駅前にある。駅の名前が「ひらやま」で今と違う。
- ⑦ 日野六小(芝山分校)の隣に火葬場がある。なぜ火葬場があるの。隔離病舎(病院)との関係。
- ⑧ 多摩八王子競馬場がある。なぜここにできたのか。お客さんはどこからやってくるの。

【2】 発言の整理と、学習課題の設定・学習指導計画の作成

- ① 養蚕について調べたい。米つくりと用水・水車の関係を調べたい。
- ② 昔の地名を調べたい。「大助」「芝山」「黒川」「大久保」等
- ③ 学校の歴史を調べたい。「平山小」「豊田小」「日野六小」等。昔の通学路を調べたい。
- ④ 「巽聖歌」は、日野に来てから、どのような作品を作ったのか調べたい。
- ⑤ 中央線と京王線の歴史を調べたい。昔の駅の名前を調べたい。
- ⑥ 「鮫陵源」について調べたい。なぜ、日野(平山)のディズニーランドと言うのか。

「小学生の地図帳」は、3 年生から使用される。地図学習は 3 年生から始まる。子供の興味・関心は高く地形図も読み取ることができる。私は退職後、3 年生社会科「昔の暮らし」や小中学校の「総合的な学習の時間」の授業で、昭和 15 年の地形図を活用し、課題を整理し学習計画を立てる授業を実践している。地図の見方や記号の指導を徹底すれば、子供達は地図を読み取り、課題を見つけ、学習計画を立てることができる。

【3】 以上の学習を発展させ追究する事例

①学校の歴史 昭和 15 年の地形図を見ると、伝統校である「平山小学校」や「豊田小学」の所在地や名称が違うことに気づく。明治 6・7 年にお寺の本堂等を仮校舎に開校した。その後、校舎が建設され移転する。分校になったり、国民学校になったり、激動の歴史の中を発展していく。昭和 40 年の地図を見ると、「日野六小」は「芝山分校」となっている。新制中学校の「七生中」は、七生村ではなく旧豊田村・桑田村に位置している。意欲的に追究できる。

②巽聖歌 昭和 23 年(1948)、競馬場の隣接地「東大助」に巽聖歌は家族と共に転居してきた。この家で「新見南吉童話全集」等、新見南吉作品を刊行し、「雲雀のこえは」(競馬場)や「ぼくらの団地」(多摩平団地造成中)の詩を作っている。転居当時、二人の子供は小中学生であった。どの学校に通学したのか、通学路はどの道かを調べる。巽聖歌は飲兵衛で酒が切れると、妻野村千春に酒を買いに行かせた。野村千春は、どの道を通って、どのお店で酒を買ったのか。地図と年表から予想し追究する。多摩平団地ができる前と後では道も酒屋も違うのではないかと。当時の暮らしとまちの発展が分かる。

課題の追究は、どんどん広がり深まっていく。小中学校の「総合的な学習の時間」で、自ら課題を設定し追究する授業に地図の活用は有効である。社会科等の教科やテーマ・ねらいによって活用する地図の範囲(地域)を決め、年表を作成し授業を構想し実践したい。

(5) 参考図書

昭和 15 年の地形図は、『明治・大正・昭和 東京一万分の一 地図集成』として、1983 年に柏書房から刊行され、市政図書室や中央図書館でコピーできる。

国土地理院の戦前・戦後の地形図は、パソコンで検索することができる。地形図の活用については、今尾恵介著『地理院地図の深掘り』が、2025 年に PHP から発行されている。



野白

昭和十五年三月測量  
 都市計画東京地方委員会  
 (1:100,000)

昭和十五年三月測量

王子



## VI ふるさと文化財課、図書館、生涯学習支援課（中央公民館）の連携

### ふるさと文化財課・図書館・生涯学習支援課（中央公民館）との連携

- 毎回の委員会にメンバーとして参加
- 授業づくりのための情報や資料提供
- 夏季研修会への協力



フィールドワークの案内



フィールドワークの振り返り

ふるさと文化財課（郷土資料館・新選組のふるさと歴史館）と学校との連携

◆郷土資料館企画展「明日に伝える戦争体験 戦後80年～平和をつなぐ」が開催され、好評を博しました。実物資料と聞き書きに基づいたストーリー仕立ての展示で戦争を自分事として追体験してもらい、若い世代に戦争について考えるきっかけとなる展示でした。

ふるさと文化財課、図書館、生涯学習支援課中央公民館との連携について御紹介します。

毎回の委員会に委員として参加し、授業づくりのための情報及び資料を提供していただきました。夏季研修会では、ふるさと文化財課の学芸員さんが、事前に参考資料の提供やフィールドワークでの案内、午後の研修会にもグループ研究で助言をいただきました。専門的視野の助言は、日野の地域に対する教員の理解が深まり、「子供たちへの授業につなげたい。」との思いが高まりました。

ふるさと文化財課としては、郷土資料館・新選組のふるさと歴史館の特色を生かした、小中学校教育との連携協力を行っています。・小学校（3年生の社会科見学や「昔の道具」出張授業、6年生の歴史学習）、中学校（職場体験、地域学習）、わかば教室（千歯こき・足踏み脱穀機・唐箕などを使った平山陸稲の脱穀体験）を行い、その他にも学校からの依頼に応じて、収蔵資料の貸し出しなどを行い、郷土教育の推進に努めてきました。

戦後80年の令和7年夏に開催した郷土資料館企画展「明日に伝える戦争体験 戦後80年～平和をつなぐ」では、実物資料と聞き書きに基づいたストーリー仕立ての展示を通して、パネルの登場人物が戦争の時代に迷い混むように、展示を見ている人も戦争を追体験して自分事化する、子供や若い世代に戦争について考えさせる展示を行いました。

展示を10月まで行っていたので、小学3年生の国語教材「ちいちゃんのかげおくり」とも連動し、熱心に学習に役立ててくれた先生や、ちいちゃんと同時代の展示資料を郷土資料館に来館した児童も感慨深く見ていました。

また、職場体験に来た中学生に、戦争にかかわる資料をじっくり見せ、そこで感じた違和感・驚き・悲しみ・考えたことを絵や文にしてもらい会場に展示しました。戦争が起きると私たちはどうになってしまうのか？それらが、戦争が起きた過去と平和を願う未来をつなぐバトンの役割を果たしてくれました。

中学生が描いた絵

展示資料：硫黄島にあった日本軍兵士の遺品



フィールドワーク研修会ではポリシエック設計の帝人ファーマ東京研究センター構内と、旭が丘中央公園にある、箕聖歌童謡たき火詩碑と平山台区画整理事業しゅん功記念碑を見学して、ファナック日野を経て富士電機東京工場と工場内のまつり塚を巡見しました。



高幡図書館、中央図書館、百草図書館には無料で利用できるギャラリースペースがあります。

高幡図書館では、潤徳小学校3年生の総合学習「高幡不動尊はかせになろう」で作成した成果物を3月に展示予定です。様々な方が訪れる図書館に展示することで、子どもたちが学んだ「高幡不動」について、地域の方々にも広く知ってもらうことができます。

また「日野の昔話」をテーマに展示も行いました。児童に限らず、日野市や高幡近辺に伝わる昔話があることを多くの人に紹介することができました。

図書館では今後も学校と地域をつなげ、子供たちの学習を支える活動を行っていきたいと思います。ぜひご活用ください。

# 平山陸稲栽培（ふるさと文化財課との連携）

## 平山陸稲栽培



平山陸稲は明治の終わりに、平山村の林丈太郎という篤農家が発見し、畑の稲として日本全国に広がった陸稲です。郷土資料館の協力も得てわかば教室の子供たちが平山陸稲づくりに取り組みました。子供たちは6月にコンテナボックスに田植えをし、水やりや案山子作りなどをして大切に育て、出てきた稲穂は、平山陸稲の特徴である、紫色の長い芒をもっていました。9月に稲刈りをし、11月に脱穀体験をしました。今年には穂が出たときの鳥害対策を徹底したことで、玄米ベースで、去年の254gから814gと約3倍の収量となりました。

子供たちは学習を振り返り、「貴重な体験ができてとても良かった。」「楽しかった。食べられて良かった。」「ちゃんとおいしくて十分満足。」と初めての陸稲栽培体験の感想を書いていました。

### 【陸稲栽培暦】

作業、活動等	内 容	R7年度	備 考
種の選別	真水に浸けて沈んだ種を選ぶ	5月14日	
浸種	10～15℃の真水に浸ける	5月14日	
苗床準備	浅いコンテナボックスに極小赤玉土、水	5月15日	N8P8K8 肥料入
播種	苗床に均一にばらまく	5月15日	1週間程度で発芽
水やり	水が減ってきたらつぎ足す		汲み置き温めた水
田植え準備	深いコンテナボックスに黒土7分目、水	6月16日	肥料を混ぜ代掻き
田植え	苗2～3本を束にし、ボックスに25か所	6月19日	鉛筆持ちで深植え
支え作り	稲が倒れぬよう四隅に支柱、横棒を渡す	7月22日	高温水不足、水やり
一部茎が黄色くなる	苦土石灰を少量いれて酸性を中和する	7月22日	8月10日に出穂
追肥	コンテナボックスの土の上にばらまく	8月6日	
網掛け	鳥害防止のため全体に網で覆う	8月12日	鳥の侵入防止の為
案山子の設置	わかば教室の子供たちが作り設置	9月19日	鳥の害防止の為
水切り	水やりを止め、米を熟成させる	9月25日	
稲架（はさ）の準備	干すための横棒、鳥よけのネット設置	9月下旬	水濡れ防止カバー
稲刈り	刈り取って束にし、稲架にかけ干す	9月25日	ノコギリ鎌
脱穀、粳摺り、精米	千歯こぎ、脱穀機、唐箕、粳摺り精米機で	11月13日	農具は郷土資料館
試食	家庭科室で炊飯して試食	12月11日	子供たちの感想



田植え



田植えから5週間



稲刈り前の平山陸稲



郷土資料館収蔵農具で脱穀

## VII 研究の成果と今後の課題

### 成果 研究の成果と今後の課題

- 歴史や文化、産業等を身近な郷土教材として良さを課題を  
考えることにより、関心や愛着を子供たちに育てる授業を  
開発工夫できた。
- 委員自身が日野地域の学びを深めることで愛着が深まり、  
子供たちへの授業や指導に活かすことができた。
- データベース集から指導案作成が効率よくできた。
- 学芸員等の連携が授業と研究を深めることにつながった。

### 課題

- 郷土教育が目指す授業の指導方法と学習活動計画の工夫  
改善のための研究をする。
- 地域の良さを歴史、文化、風土等から、地域の思いや願いを  
基に地域の課題を考える郷土教材を開発作成する。
- 指導事例集のデータベースを更に活用する研究をする。

研究の成果と課題について述べます。

成果としては、「歴史、文化、産業等身近な郷土教材を扱うことで地域の良さに気づき、地域の取組や課題を考えることで関心や愛着を育てる授業を開発工夫できました。」また郷土教育推進研究やフィールドワークを通して「委員自身の日野市の地域と歴史の理解を深めることができ、子供たちの授業や教材開発力の向上につながりました。「指導事例集のデータベースを活用することで、教材開発や指導案が効率よくでき更に授業の工夫改善ができました。」「学芸員、図書館司書等の情報や助言が研究を推進することにつながりました。」

今後の課題としては、実践をさらに重ねていけるように「郷土教育が目指す授業に向けての更なる指導方法と指導計画のための研究をする。」「郷土教育に取り組めるように日野地域の良さに気づき、地域の課題を考える郷土教材を開発作成する。」「指導事例集のデータベースを更に活用する研究をする。」ことが挙げられます。

## VIII 個人研究

所属（豊田小学校）授業者（飯塚 直大）(A) グループ

学年 3年	教科 総合	単元名 地域のよさをまとめ、つたえよう
学習テーマ 郷土の魅力		使用教材資料
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の「まちたんけん」と関連付けて学校の東西南北にどんな建物や場所があるのかを学習した。</li> <li>・自分たちが住む、地域のよさを出し合い、あらためて地域にどんなよさがあるかを確認した。そして、自分が一番伝えたいことについて調べ学習をしたり、同じテーマの人と情報を交換したりしてまとめて発表をした。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちたんけんをしたことで、自分が住む地域のよさにあらためて気づくことができた。</li> <li>・友達の発表を聞くことで新たな発見が生まれた。</li> <li>・お祭りやイベントなどがあることが分かり郷土の魅力に興味をもつ児童が増えた。</li> </ul>		

所属（日野第五小学校）授業者（木下 涼平）(A) グループ

学年 4年	教科 社会	単元名 地域でうけつがれているもの
学習テーマ 日野の伝統行事		使用教材資料
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に記載されている府中くらやみ祭りを取り上げる前に日野の新撰組祭りを題材として取り上げた。</li> <li>・新撰組祭りの歴史などを調べた。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市にも伝統を残したいと考えている人々の思いに支えられて受け継がれている年中行事があることに児童が気付くことができた。</li> <li>・伝統行事を残すために、地域の祭りに積極的に参加しようとする児童がいた。</li> </ul>		

所属（日野第六小学校）授業者（高橋 優太）(A) グループ

学年 6年	教科 総合	単元名 まちづくりについて考えよう
学習テーマ これからの日野		使用教材資料
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市について改めて知ることで自分達の住んでいる日野市の魅力について再確認し、フィールドワークを行った。</li> <li>・ゲストティーチャーから得た情報を整理分析し、個人のテーマを決め探究活動を行った。</li> <li>・調べたり聞いたりしたことをまとめ、発表会を行い、各テーマで実践活動を行った。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて自分達の生まれ育った場所である日野（多摩平）を大切にしようという気持ちが高まった。</li> <li>・日野についての理解がより深まった。</li> </ul>		

所属（旭が丘小学校）授業者（海老原 祥子）（A）グループ

学年	5年	教科	総合的な学習の時間	単元名	日本の伝統文化
学習テーマ			米作りを通して日本の伝統文化を学ぶ		
使用教材資料					
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の「未来をささえる食料生産」と関連付けながら、日本の米作りについて体験を通して学習した。</li> <li>・日本では昔から伝統食として食べられている米がどのように作られているのか、地域の農家さんをゲストティーチャーとして招き、田植えや稲刈り、脱穀の工程を教えていただきながら活動を進めた。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の産業（農業）の理解を深める上で、既習事項と郷土で活動されている方の実践やお話を関連付けながら体験を通して学ぶことは有用であると感じた。</li> </ul>					

所属（平山小学校）授業者（飛澤 宗太）（B）グループ

学年	4年	教科	総合	単元名	「平山おかぼを育てよう」
学習テーマ			日野と農業		
使用教材資料					
ゲストティーチャー					
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間における「平山おかぼを育てよう」の単元において、ゲストティーチャーを招き、学習を行った。</li> <li>・田んぼで育てる稲と違い、畑で育てる稲についての特徴を学ぶことや、実際に陸稲を植えてみる活動を行い児童の関心が高いまま学習を進めた。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習が自らの生活と絡んでくると児童の学習意欲も一段と高まると感じるので、給食などと絡めて考えることも有用ではないだろうか。</li> </ul>					

所属（南平小学校）授業者（中原 祥雄）（B）グループ

学年	6年	教科	理科	単元名	土地のつくりと変化
学習テーマ			日野市の地層から見る歴史発見		
使用教材資料					
日野市における地層の写真					
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>日野市の地層の縞模様や堆積物の様子、断層の様子を比べ、地層面を手がかりにしながら、「この地層ができるまでに、どんなことが起きた」という疑問をもたせる。地層がまっすぐになっているところや、凸凹しているところに着目し、層ができた場所や積もり方を「手がかり」にしながら地層のでき方を考える活動や、「地層は下から、昔に積もったものが上に積もっていく」や「海面が変わることによって地層の積もり方が変わる」といった考えもヒントに、資料から得た様々な情報を多面的に捉え、より妥当な考えがもてることを目指した。</p> <p>考察</p> <p>地層の模様の様子とそれを引き起こした土地の変化とを結びつける思考において、児童に個人差が大きく見られた。児童に自力解決をさせたうえでグループの話し合いをする展開を考えていたが、児童が悩む様子が多く見られた状況がみられたため、グループで協力して考える展開に変更した。事前に土地の変化によってどのような地層が生まれるのかの抑えをより丁寧に指導する必要があった。そうすれば自力解決後にグループ交流という展開がスムーズに流れたと考える。</p>					

所属（ 仲田小学校 ） 授業者（佐藤 志穂）(B) グループ

学年 3年	教科 総合的な学 習	単元名 ぼくらは用水たんけんたい
学習テーマ 用水		使用教材資料 日野用水を調べよう
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺の用水（蚕糸公園、上堰用水、下堰用水）にフィールドワークに行き、用水への興味関心を高め、調べ学習の課題を設定した。</li> <li>・リサーチタイム（フィールドワーク、ゲストティーチャーへの質問、図書資料やインターネット資料での検索）を設定し、課題解決のための調べる方法を児童に選択させた。</li> <li>・フィールドワークの機会を複数回設定し、五感を使って課題解決する場を設けた。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を始めたころは、「用水が何のためにあるか」「誰が作ったものか」を知らない児童が多かったが、調べを進めることで用水が昔から大切にされてきたものであることを知ることができた。</li> <li>・児童の中でも、「用水を大切にしていきたい」という気持ちが高まった。</li> </ul>		

所属（ 滝合小学校 ） 授業者（佐藤 俊太）(B) グループ

学年6年	教科 総合的な 学習の時間	単元名 滝合プロジェクト
学習テーマ 滝合地区の良さを郊外に発信する。		使用教材資料 「日野バスらせ王決定戦！」
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝合地区とはどのような場所かを考え、地区の良さを生かすため、また課題を解決するために「滝合プロジェクト」を行う見通しをもつ。</li> <li>・「日野バスらせ王決定戦！」の担当者をゲストティーチャーとして招き、開催にかける思いを聞く。</li> <li>・児童が出した6つのプロジェクトに分かれ、情報収集を行う。 「自然・環境プロジェクト」 「エコプロジェクト」 「認知度アッププロジェクト」 「祭り・イベントプロジェクト」 「笑顔を広げようプロジェクト」 「特産品プロジェクト」</li> <li>・集めた情報を整理し、具体的な取り組みの計画を立てる。</li> <li>・校内や郊外での取り組みを実施する。</li> <li>・振り返りを行う。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が地域の良さを知る良いきっかけとなった。</li> <li>・日野市の「日野バスらせ王決定戦」とコラボすることで、児童がより主体的かつ探究的に学習できた。</li> <li>・「日野バスらせ王決定戦」の取り組み内容が明確でなかったため、発信方法の工夫が必要だった。</li> </ul>		

所属（日野第八小学校）授業者（蓮田 光幸）（C）グループ

学年	5年	教科	総合的な学習の時間	単元名	「ひのはちから創るSDGs！」
学習テーマ	自然環境を守り、持続可能な社会をつくる			使用教材資料	
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsについて調査した。（17の目標や企業の取り組みについて調べた。）</li> <li>・4年生での地域の活動を振り返り、地域の施設や小売店の取り組みについて話し合い、インタビューを計画し、調査をした。各グループの調査結果を学級全体で共有した。</li> <li>・これまでに調査してきたことから、自分たちにできることを考え、実践し、学校や地域へと広げる方法を話し合った。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsについて調べることで、社会全体で取り組んでいることを学ぶことができた。</li> <li>・身近な地域でもSDGsに取り組んでいることを知り、自分たちにできることは何かを考えるきっかけとなった。</li> <li>・自分たちにできることを実践することで、SDGsへの意識が高まり、学校全体や地域へと広がっていきたい気持ちが高まった。</li> </ul>					

所属（七生緑小学校）授業者（前川 大樹）（C）グループ

学年	6年	教科	総合的な学習の時間	単元名	発信！七生緑編集部
学習テーマ	地域の魅力の発信	使用教材資料			
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>「自分たちでもまだ知らない地域の魅力があるはず。」という児童の考えのもと、地域のお店に実際にインタビューを行った。</p> <p>インタビューを行い、得た情報を地域に発信するためにポスターを各自作成し、取材したお店に掲示してもらうようお願いをした。</p> <p>考察</p> <p>自分たちでお店を調べ、インタビューのお願いの電話等もしたことで、自分たちの住む地域について一層興味が深まった。</p> <p>発信の方法をポスター以外にも、地域と協力して考えていく。</p>					

所属（夢が丘小学校）授業者（宮川 美沙）（C）グループ

学年	4年	教科	社会科	単元名	わたしたちの東京都の様子
学習テーマ	夢が丘小地域の様子	使用教材資料	社会科教科書	校外学習	
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>東京都の地形の学習から児童の住んでいる地域は「丘陵地」にあたることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南平丘陵散策コース・かたらいの路を歩いて、土地の高低差や地形の様子を調べた。</li> <li>・みはらしの良い公園から地域を眺めることで、土地の高さや丘陵地に自分たちの住む場所があることを実感させた。</li> </ul> <p>考察</p> <p>実際に歩くことで、地形の様子や自然の豊かさに気づき自分たちの住む地域について一層興味が深まった。自分たちの住んでいる地域の特徴を知り、大切にしたいという思いをもった。</p>					

所属（日野第四小学校）授業者（宮寺 翔）(D) グループ

学年	5年	教科	総合	単元名	校歌を〇〇しよう！
学習テーマ	校歌 学校の歴史		使用教材資料 日野四小の歴史資料、インターネット		
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>日野四小の校歌を自分なりに読み解き、学校の歴史や校歌の意味を深く考える。また、校歌をスタートとして日野市の歴史や環境に興味をもち、郷土に対する愛情や誇りを育む。</p> <p>調べた内容を Canva を用いてポスターや動画、プレゼンテーション等の形でまとめ、発表する。</p> <p>考察</p> <p>なじみの深い校歌を活用し、学校や日野市について考える機会となった。校歌の意味を考える活動では様々な解釈が生まれ、学校の歴史的背景や周辺の環境の変化などを知ることができた。</p>					

所属（日野第一小学校）授業者（中山 真吾）(D) グループ

学年	3年	教科	社会	単元名	日野市の魅力を伝えよう！
学習テーマ	日野市の魅力		使用教材資料 日野の歴史資料、インターネット		
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>日野市の魅力を複数挙げ、グループごとに分かれて本やインターネットを使い調べた。調べた内容をスライドでまとめ、学年、2年生に発表をした。</p> <p>考察</p> <p>学習前は「住んでいる町」という認識が中心だったが、調査活動を通して、①多摩川や浅川などの自然②高幡不動尊などの歴史的な場所③新選組ゆかりの町であることなど、地域の特徴に気づき、日野市の魅力を自分の言葉で語れる児童が増えた。</p>					

所属（日野第七小学校）授業者（千葉 智子）(D) グループ

学年	4年	教科	社会	単元名	受けつがれる祭り
学習テーマ	東京都の伝統や文化		使用教材資料 わたしたちの東京都		
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>〇府中くらやみ祭で学習したことを基にして、日野市の身近な文化財「高幡不動」「八坂神社」について各HP・『歩こう調べようふるさと七生』の資料を中心に、比較しながら調べ学習を実施。</p> <p>〇地域の人々が受けついできたことや、地域の発展など人々の願いが込められていることを振り返り、身近にある文化財や年中行事を保存・継承していくために必要なことを考える。</p> <p>考察</p> <p>身近な場所にある文化財に強い関心をもって、意欲的に調べることができた。また、地域の歴史や人々の思いに気づき、自分たちにもできることを具体的に想像して考えることができた。児童のもっと調べたいという思いに添って、授業時間を十分に確保できず、単元計画の見直しが必要であった。</p>					

所属（東光寺小学校）授業者（荒川 真帆）(D) グループ

学年 4年	教科 総合的な学習の時間	単元名 日野用水について調べよう
学習テーマ 日野用水		使用教材資料 わたしたちの日野・わたしたちのふるさと東光寺・日野市HP
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東光寺小の池の水やコイがどこから来ているのか予想し、日野用水について調べる動機付けをした。</li> <li>・日野用水沿いを歩きながら、多摩川とつながっていることや普段遊んでいる公園にも日野用水の水が引かれていることを知り、日野用水を取り巻く環境を学んだあとに学習の計画を立てた。</li> <li>・調べたいテーマ「歴史」「動植物」「環境保全」「作り」に分かれてインターネットや書籍を用いて調べ、日野用水についての知識を深めて、スライドで発表した。</li> </ul> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域を取り上げ、「身近なのに知らないことがある」を強調することで児童の興味関心が高まった。</li> <li>・日常的に見ていることで、疑問が生まれやすく、児童が主体的に調べ学習に取り組んでいた。日野用水について探究を進め、日野が「緑と清流のまち」を掲げる背景を児童が実感できた。</li> </ul>		

## ～ 編集後記 ～

### 【松田 絢也：郷土教育推進研究委員会担当指導主事】

郷土教育推進研究委員会は、第4次日野市学校教育基本構想に基づき「地域を舞台として、ホンモノとの関わり」を大切に、本構想の具現化を目指し研究を進めてきました。これまでの研究成果により、子供たちが郷土という最も身近な教材で各教科等の見方・考え方を働かせ、探究的に学ぶとともに、子供たちに日野を愛する心を育む教育活動が、日常的に実践されるようになりました。

今回報告された皆様の実践や指導事例が、各学校の実態に合わせて活用され、更に実践事例が積み重なり、日野市の郷土教育の充実がより一層図られることを期待しております。

本委員会へのご指導・ご助言をくださいました顧問の先生方、日野市の郷土教育の推進、充実、発展にご尽力くださいました委員の皆様に感謝を申し上げます。

### 【秋田 克己：郷土教育推進研究委員会副委員長 日野第三小学校副校長】

今年度も授業研究を基に、市内各学校における授業づくりに役立てていただくための情報や資料を作成してきました。今年度は着任して初めて日野の地に立ったという委員が多く、日野を知ることから本研究委員会が始まりました。過去20年間の実践資料を手掛かりにしながら、各校の実情に合わせた授業改善を進めていただきました。暑さ厳しい折に出かけたフィールドワークでは、紙面や電子上の情報では分かりにくいことも、現地を訪ねることによって見えてくるという体験をしました。授業公開においては、過去に扱われた同一の教材であっても内容に違いがあり、見応えのある実践を展開していただきました。いずれも磨きをかけた教材研究が行われた跡を感じることができました。今年度の実践については当事例集を電子資料化し、アーカイブとして残します。これから授業を実施される先生方に、ぜひ活用していただきたいと願っています。

10回の研究会への参加にご配慮をいただきました各校長の皆様、研究に取り組みされた各校の先生方、各課の皆様に感謝を申し上げます。

郷土教育推進研究報告書

令和7年度（2025年度）

「郷土日野」指導事例

～第20集～

令和8年3月31日発行

日野市立教育センター  
郷土教育推進研究委員会